

会 議 録

会議の名称	令和 7 年度(2025 年度)第 7 回つくば市総合教育会議		
開催日時	令和 8 年(2026 年) 2 月 25 日 (水) 午後 3 時 00 分から午後 5 時 00 分まで		
開催場所	つくば市役所 5 階 庁議室		
事務局 (担当課)	教育局教育総務課		
出席者	委員	五十嵐市長、森田教育長、倉田教育委員、手打教育委員、 和泉教育委員、坂口教育委員	
	事務局	《教育局》久保田局長、柳下副教育長、根本副教育長、柳町次 長兼健康教育課長、森田次長兼学務課長、青木企画監 《教育総務課》山岡課長、飯村課長補佐、武田係長、高橋主任 《学務課》森田次長兼学務課長、望月課長補佐、松尾幼稚園事 業推進監、菅原係長	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	5 名
議題	公立幼稚園の在り方について		
会議次第	1 開会 2 議題 公立幼稚園の在り方について 3 閉会		
<p><審議内容></p> <p>事務局（教育総務課）：それではただいまから令和 7 年度第 7 回つくば市総合教育会議を開催いたします。今回は、公立幼稚園の在り方についてという議題で意見交換を行います。終了時刻は午後 5 時を予定しています。会議録の作成にあたりまして、AI 議事録を使用いたしますので、ご発言の際には必ずマイクの使用をお願いいたします。それではここからの進行は市長にお願い</p>			

様式第1号

いたします。

市長：お集まりいただき、ありがとうございます。始まる前に今日から手打先生が総合教育会議にご参加をいたしますので、手打先生から一言いただいてもよろしいですか。

手打委員：ご紹介に預かりました手打です。昨年の12月から教育委員を拝命いたしました。いろいろ所用がありまして、今回初めて参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

市長：私が先生と初めてお会いしたのは、ちょうど今から20年ぐらい前のつくば市が公民館を交流センターに変えるという議論をしていて、先生は社会教育施設としての価値を持つ公民館に対して、検討プロセスが少し不十分ではないかという強い問題意識をお持ちでした。私も先生がやられた勉強会に行き、社会教育への思いや場所としての価値などを、もっと市で考えなければいけないというお考えにとっても共感しまして、以来、一方的に存じ上げていましたが、こうしてご一緒できてとてもうれしく思っております。ぜひよろしくお願いいたします。

ということで、公立幼稚園の在り方ですが、ご存じのように課題がたくさんありますので、まずは担当から説明をしてもらって、本日、結論を出すものでもないですし、別の会議が検討では動いていますので、そこでの議論に資するような形で、各委員の皆さんから、自由な形でご意見いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。菅原さんからよろしいですか。

学務課菅原係長：学務課の菅原と申します。よろしくお願いいたします。スライドの1ページ目から始めにつくば市立幼稚園のあり方検討委員会についてご説明させていただきます。つくば市では、つくばエクスプレス開通後沿線開発に伴う人口増加が続いている一方、公立幼稚園においては、少子化の影響や女性の社会進出に伴う保育需要の増加等により年々園児数が減少しており、定員を大きく下回る状況が続いております。また、子ども子育て支援新制

度の施行や幼児教育保育の無償化の実施など、幼児教育を取り巻く政策や環境が大きく変化しております。このような中、つくば市教育大綱が掲げる一人ひとりが幸せな人生を送るという最上位目標を幼児教育においてどのように実現していくか、現在、市立幼稚園が抱える課題にどのように対応していくかは、幼児教育の充実を推進していく上で重要な政策です。つくば市立幼稚園あり方検討委員会では、将来に向けて、公立幼稚園に求められる機能や役割を再整理するとともに、少子化等の社会情勢及び利用者ニーズを踏まえた効果的、効率的な公立幼稚園の運営体制等を、検討していくことを目的としております。

続いて未就学児人口の推移です。グラフは、住民基本台帳をベースとした年齢別人口統計の0歳から5歳までの人口の推移をあらわしたものです。令和5年度の1万5149人を一旦のピークとして減少に転じております。令和7年3月策定のつくば市子ども子育て支援プランでも、今後の未就学児の人口見込みを推計しており、今後5年間、令和11年度までの間に0歳から5歳までの人口は、千人以上減少する見込みとなっております。右側の表は令和5年度から3年間の0歳から5歳の構造を示しているものです。

続いて、現在開催しておりますつくば市立幼稚園あり方検討委員会のスケジュールです。これまでに第3回委員会まで開催しております。2月19日に開催した第3回の委員会を受けて、今スライドに示してあるスケジュールよりも、もう1回、追加で開催をすることとなりました。今年度中に第4回を開催し、令和8年度に第5回、第6回の委員会を開催することとなりました。その後、令和8年11月ごろに委員会から教育委員会へ提言をいただき、令和9年1月ごろから教育委員会で詳細なつくば市立幼稚園再編計画の策定を開始する予定です。

次につくば市立幼稚園の現状と課題についてご説明いたします。グラフは既存の統計つくばをもとに学務課が作成しました市内の幼児教育保育施設に在

様式第 1 号

籍する 0 歳から 5 歳までの園児数の推移をグラフ化したものです。青い線が公立、私立の認可保育園、オレンジ色の線が平成 27 年度からの子ども子育て支援新制度移行後の認定こども園のうち保育園型、幼保連携型。続いてグレーが幼稚園型認定こども園を含む私立幼稚園、黄色が公立幼稚園です。保育施設については増加傾向にある一方、幼児教育施設については減少傾向にあることがわかります。さらに特徴がはっきりわかるよう、5 歳児を例にそれぞれの施設ごとに人数を示したものが右の表です。私立幼稚園については市で把握できる限りとなります。その他の欄については、単純に住民基本台帳の人口との差になります。令和 7 年度の状況は、5 歳児の住基人口 2733 人のうち、保育施設を利用する人数は公立保育園、私立認可保育園は計 1428 人、約 52%。認定こども園のうち、保育を実施する保育園型、さらに幼保連携型まで含めると、計 1745 人、約 63%を占めます。教育を実施する認定こども園のうち、幼稚園型、私立幼稚園、公立幼稚園の合計は 746 名、約 27%です。令和 7 年度の公立幼稚園の比率は全体の 1 割を下回っております。就業状況の変化による保育ニーズが高まる中、どのような形で公立幼稚園での幼児教育を実施していくかというのは課題の 1 つと考えております。

続いてつくば市立幼稚園の定員の推移及び現在の定員に対する充足率です。表の左側が定員の推移となっております。令和 3 年度までの定員は、合計で 2835 人でした。市南部の旧高崎、旧岩崎幼稚園を荃崎幼稚園として統合し、荃崎第三小学校の校舎内に、令和 5 年度から設置しました。令和 6 年度からは定員は 1086 人に整理しております。表の右側は令和 7 年 5 月 1 日現在の各年齢の園児数です。一番右が現在の定員に対する充足率です。園児数 456 名で、全体で充足率 42%ですが、もともとの定員との比較では全体で約 16%という状況となっております。全体の充足率が低い中でも、特に低い面もあるというところで、この小規模園の運営についても課題を感じているところで

様式第 1 号

次に公立幼稚園 15 園と私立幼稚園、認定こども園の保育園型を除いた 13 園の一覧です。右側の地図上に示しております。地図上の境界線は公立幼稚園の園区です。TX 沿線の区画整理事業において、公立幼稚園の建設等はありませんので、公立幼稚園の配置は主に周辺の旧 6 町村の市街地付近に立地している園、7 園ありまして、大穂、上郷、谷田部、島名、桜、筑波、荃崎。それから研究学園都市建設によって形成された中心市街地エリアをカバーするように立地している園、8 園で手代木南、二の宮、東、松代、竹園東、竹園西、吾妻、並木となっております。

続いて現時点で学務課として、公立幼稚園の課題ととらえている点です。保護者の就業状況の変化等による保育ニーズの高まり、幼児教育の多様化、これらにどのように対応していくかということです。文科省の今後の幼児教育の教育課程指導評価等のあり方に関する有識者検討会令和 6 年 10 月の最終報告の中で、現代的諸課題に応じて検討すべき事項として、特別な配慮を必要とする幼児への指導、預かり保育、満 3 歳児以上児の教育の接続を挙げており、これらは全国的な傾向となっております。

また、園児の減少に伴う小規模園の継続についてです。幼稚園教育要領には多数の同年代の幼児と関わり気持ちを伝え合い、時には協力して活動に取り組むなどの多様な体験が必要とされております。また平成 25 年 3 月の社団法人全国幼児教育研究会による幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究において、教員が望む 1 学級の幼児数として、幼児期に集団での関わりが十分確保されるためには一定の集団の大きさが必要であると園長担任ともに認識しており、3 歳児は生活習慣を身につけることを優先し、20 人以下。4 歳 5 歳児は、20 人以上。中でも 5 歳児は 25 人以上が望ましいとされております。

続いて施設の老朽化についてです。つくば市の特性として 6 町村が合併してできた、筑波研究学園都市建設時に一斉に作った公共施設が老朽化を迎えて

いるということです。

最後に、維持管理コストと人的リソースの確保についてです。

森田次長兼学務課長：維持管理コストということで資料編の見方のご説明をしたいと思います。資料編 6 ページをご覧ください。こちらに幼稚園費の推移ということで単純に、つくば市の一般会計、10 款 4 項第 1 目というところに幼稚園費という項目がございます。その中には、事業No.05 の職員給与に関する経費から事業No.19 の私立幼稚園へ利用給付による経費ということで費目が設けられております。年度に応じまして、多少実績額の方が変動します。理由としましては、事業No.11 の上から 3 段目、施設整備に要する経費の方が多いときには、事業費が増えているというような形で、令和 6 年度、7 年度見てみますと令和 6 年度は全体で 11 億 9000 万円ほど、令和 7 年度は全体で 18 億 3000 万円ほどとなっております。このうち、一番下の令和 7 年度を例に挙げますと、一番下の私立幼稚園給付に要する経費というのは、私立幼稚園の無償化に伴うものですので、公立幼稚園とは関係ないものでございます。この 18 億 3000 万のうち、2 億円ほどが、市立幼稚園利用給付に要する経費となっております。残り 16 億の内訳としましては、当初予算で計上しています幼稚園に関する経費が 10 億。6 年度予算を繰り越して事業を実施する空調工事の設置事業が約 6 億円ありますので、7 年度の事業費のうち公立の幼稚園に係る経費としましては概ね全体で 16 億円となります。管理コストということで強引ですが、仮に令和 7 年度 5 月 1 日の園児数 456 人で割ると 16 億円を割ると、350 万円ほどとなります。こちらにつきましては園児数が減少している状況ですので、1 人当たりのコストというのが、年度ごとによって上昇している状況となっております。補足のほうは以上でございます。

学務課菅原係長：続いて、本編に戻っていただきまして 8 ページをご覧ください。8 ページは 3 年保育及び預かり保育と平日の延長保育に関する保護者のニーズについての調査結果です。その結果から 3 年保育及び平日の預かり保

育の需要が高いことが伺えます。続いて9ページ、こちらは保護者、とりわけ母親の就労状況の変化についての表とグラフに示したものになります。平成25年、平成30年、令和5年で比較するとフルタイムで就労している方が増加し、就労していない、したことがないという方が減少しており、共働き世帯が増えているということが伺えます。

次に、つくば市立幼稚園に求められる機能や役割についてご説明いたします。学務課で考えるつくば市立幼稚園に求められる役割として、第2回検討委員会に提示しました。1つ目は、地域における幼児教育の拠点園としての役割です。幼児教育の基本を押さえた保育を行い、子どもの発達を総合的に支援しながら、各家庭の背景に関係なくすべての子どもに教育の機会を保障するとともに、地域住民とも関わりながら、地域に根づいた幼児教育を実践し、発信する必要があると考えております。2つ目は、保幼小の円滑な接続を図るため、かけ橋期のカリキュラムの構成、実施改善を指導する役割です。小学校との接続を意識しながら、公私問わず、地域の幼児保育施設全体及び小学校との連携を強化し、教育向上貢献を図っていくことが重要だと考えます。3つ目は、障害のある幼児や外国籍等の幼児を含むすべての幼児に質の高い幼児教育の機会を保障する役割です。保健センターや子育て支援センターのような市の関係機関とも連携しながら、家庭、地域との協働による子育て支援を担う役目があると考えております。

続きまして、第1回、第2回の委員会の中で、委員の皆様からいただいたご意見、をご紹介させていただきます。市立幼稚園が抱える課題として、資料の7ページに示したような課題がある中で、市立幼稚園の強みを生かした小学校との連携強化や3歳児保育、長期休業期間中の預かり保育の拡大など、様々なご意見をいただいております。また、小学校と同じ給食を提供しているなど、市立幼稚園の魅力をより積極的にアピールしたほうが良いなど、市立幼稚園を後押ししていただけるご意見もいただいております。

次に、つくば市立幼稚園が維持すべき機能についてご説明いたします。第1回、第2回の検討委員会の中で様々なご意見をいただいておりますが、これまでに公立幼稚園が果たしてきた役割について、第3回検討委員会に提示しました。市立幼稚園は幼稚園教育要領に基づき、遊びや集団生活を通して学びの土台を育ててきました。1つ目は、質の高い幼児教育の提供と学校教育との連携です。幼児期は小学校教育の基礎をつくる非常に重要な時期です。市立幼稚園では遊びや集団生活を通して、多様な経験を重ね、幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿を意識した教育を実践してきました。また、小学校との連携を重ねながら、就学への円滑な接続にも努めてきたところです。2つ目は、多様な背景を持つ子どもの受け入れです。障害の有無にかかわらず、また外国にルーツを持つ子どもも含め、一人一人の発達に応じた支援を行い、安心して通える場としての役割を担ってきました。3つ目は、地域における幼児教育の中核的存在としての役割です。未就園児の支援や地域との交流、保護者との連携などを通して、地域の幼児教育の拠点として機能してきました。資料の13ページをご覧ください。令和8年度予定園児数及び学級編制についてご説明いたします。令和元年10月からの幼児教育保育の無償化からつくば市立幼稚園の園児数は減少が続いておりますが、令和8年4月の予定数が366名となりまして、令和7年度5月時点の456名から、約90名減となる見込みです。資料の14ページをご覧ください。令和7年5月現在、園児数が定員の半数に満たない市立幼稚園が11園あります。ほぼすべての市立幼稚園で園児数の減少傾向が続いており、令和8年度は、園児数が定員の半数に満たない園がさらに増える見込みです。これまでもご説明しましたが、園児減少の主な要因として、女性の社会進出や共働き世帯の増加により、低年齢から長時間の子ども預かりを希望する保育ニーズの変化が考えられます。今後も市立幼稚園の園児数の回復は非常に困難な状況が予想されます。資料13ページにお戻りください。2つ目の令和8年度、市立幼稚園の学級編制について

てご説明させていただきます。園児数減少の状況の中でも、集団生活を通じた自主自立及び協働の精神並びに規範意識の芽生えを養うことは、幼児教育の基礎であり、これを維持するために、令和 8 年度は臨時的かつ応急的に、混合保育と平日預かり保育の拡充を実施する考えです。令和 8 年度は学級編成を 5 人以下の学級があり、かつ幼稚園全体で 10 人以下の場合は 4 歳児と 5 歳児を混合保育とします。また、平日預かり保育の拡充については、令和 8 年 5 月の開始を目標に 5 園程度を拡充していきます。各園の状況は 15 ページの通りです。青く色付けしている部分が 5 人以下の学級黄色い部分が全体で 10 人以下の園、赤い枠が 4 歳と 5 歳の混合保育を実施する園です。上郷、桜、桜南、筑波、東の 5 園が 4 歳児 5 歳児を 1 クラスで 1 名の担任により保育いたします。あわせて、令和 7 年 9 月から、島名幼稚園、手代木南幼稚園の 2 園で試行的に実施している平日の預かり保育を、さらに 5 園程度拡充する計画です。次につくば市立幼稚園のあり方についてご説明いたします。つくば市の小学校中学校では、これまで児童生徒の増加傾向であったことから、主に児童数や地理的要因を着眼点として、教育施設の適正配置を計画し、指針を作成してきました。市立幼稚園の場合は、園児数が減少していることから、園児の集団生活の中での学びを維持するためという観点で検討しております。学級編成及び園の規模について、まず現状ですが、国の幼稚園設置基準では、1 学級 35 人以下とのみ規定されておりますが、平成 23 年度の幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究では、3 歳児でも 20 人前後の集団が適切とされております。基本的な考えとしましては、質の高い幼児教育を実施するためには、集団教育の特性を生かし、多様な他者と出会える環境が必要と考え、また、園児数減少や地域密着性を考慮し、現実的な望ましい人数として、1 学級 6 人以上かつ幼稚園全体で 16 人以上という、規定を設定し、これを下回る場合は休園を検討する対象とすることを検討しております。続いて令和 9 年度以降の幼稚園運営の継続と園児への対応についてです。 4

月の始業の時点で園児数が望ましい人数を下回る園。1 学級 5 人以下または幼稚園全体で 15 人以下の園が発生した場合は、原則として、次年度の新入園児の募集は行わず、次年度から休園とします。休園を決定した場合は、在園児や保護者への影響を考慮し、早期に休園について周知する必要があります。そのため、年度当初の園児数をもって、次年度の募集を停止することを考えております。休園の対象園には 4 歳児が在園しておりますので、近隣の幼稚園への転園について丁寧に対応していきたいと考えております。

続いて、市立幼稚園の集約化と機能の拡充についてです。市立幼稚園等を取り巻く状況を踏まえ、市立幼稚園を地域の教育保育の拠点として段階的に集約化していきます。集約化することで園児の集団生活の基盤を整備するとともに、サービスを拡充するための体制を整備いたします。機能の拡充としまして、集約化に合わせて 3 歳児保育の導入、預かり保育の拡充を実施します。特に長期休業期間中の預かり保育の日数拡充や平日預かり保育の全園実施など、機能の充実を図ります。次のページが集約化のイメージです。まずは園児数を考慮しながら、既存の施設を利用し、近隣のエリア同士での集約化を検討します。まずオレンジの北部エリアは筑波と大穂を集約。緑の西部エリアは上郷と島名を集約。ピンクのエリアは東部と中央やや南エリアが入りまじりますが、人数が小規模化している各園に通園バスを活用し、集約化。青は中央やや西側エリアになります。園児数が一定程度いる手代木南幼稚園と距離的に非常に近い松代幼稚園を集約化。黄色の中央つくば駅周辺は、敷地の形状や自動車の進入経路の関係などから、既存幼稚園を活用した集約化が困難なことから、機能の充実を図りながら、次の段階として、小学校等の施設の利用を検討していきたいと考えております。南部の谷田部と荃崎につきましては、すでに小学校での設置が完了しておりますので、現状の施設のまま機能を充実させていきます。集約化の方法はあくまでイメージで、検討委員会での提言をもとに、地域や施設の状況も考慮し、再編計画において集約化する

施設を具体化していきたいと考えております。

続いて、市立幼稚園の広報活動の充実についてです。委員会の中でもアピールが足りないのご意見をいただいております。そこで、市立幼稚園のアピールポイントを明確にし、未就園児を中心とした子育て世帯への市立幼稚園の広報を充実させていきたいと考えております。アピールポイントとしては、公立幼稚園ということをつくば市教育大綱に基づく幼児教育の実践として、スライドに示してあるようなものが1例ですが、このような内容があるかと思っております。続いて再編計画に向けた留意事項として、第3回の委員会に提示したものになります。令和9年度からの集約化に向けて。集約化する園との交流、小学校区と園区が合致しない部分もございますので、これまでも幼稚園内で進む小学校が別な幼稚園というのがございましたが、小学校との連携を柔軟に対応していきます。近隣の保育所との連携、さらには認定こども園化の検討。現在の保護者だけでなく、地域には卒園生や幼稚園に愛着を持った方もいらっしゃいますので、そういった方々への周知。最後に園区の見直しということで、つくば市は研究学園都市の計画市町村合併、その後のTX沿線開発により目まぐるしく町が変わり現在に至っております。また、現在も園区外からの就園はそれほどハードルが高いものではありませんが、将来的には集約化に合わせて一旦幼稚園区というものをゼロベースで見直す必要があると考えております。

第3回検討委員会で委員の皆さんからいただいたご意見をご紹介します。幼稚園は教育機関であり、子どもが集団の中で自分の役割を見つけながら成長する場、また集約化でマンパワーが産まれるのであれば、それを支援体制に還元することが行政の役割ではないか。また、幼稚園の存続と3年保育の実現に対しまして、署名活動ということで2457名の署名をご提出いただいております。その中に3年保育があれば公立に行かせたというようなご意見もいただいております。集約化を決める前にまず3年保育を導入

して、入園者数の推移を見てから判断するべきだというようなご意見もいただいておりますが、この署名について幼稚園が存続するのかしないのかという誤解を招いてしまっている可能性もあるということで、次回の委員会でこの署名に対する今後の進め方も検討していくこととなっております。また委員会の中で複数の意見が出ていることから、提言については両論併記のような形でもいいのではないかとご意見もいただいております。第3回の委員会についてのご意見以上になります。

これまでご説明させていただいたように、現在の急激な園児数の減少を受け、各幼稚園の現在の園児数では、幼稚園を維持していくことが難しいと考えております。幼稚園を集約し、一定規模の園児数を確保することで、質の高い幼児教育を維持し、さらに保護者ニーズに応じた機能の拡充を図って参りたいと考えております。令和8年度につきましては、臨時的に混合保育という対応とさせていただきます。令和9年度以降について、皆様からご意見いただけますと幸いです。こちらからは以上になります。

市長：大量のインプットをありがとうございました。たくさんありましたが、いつも通り意見ではなく、今の説明に対しての不明点やこの数字の意味についてなど、事実確認を先に行いたいと思います。何かあればどうぞ。

なければ一旦、僕からよろしいですか。現在の定員と本来の定員があると思いますが、どのように使い分けているのでしょうか。

森田次長兼学務課長：資料5ページの中に、現在の定員は、令和6年度から1086名となっております。実質的な定員は、職員の数から逆算して、受け入れられる人数が決まります。現状、人的なリソースとしては、今いる456人を過不足なく賄っております。1クラスの人数については、さらに受け入れられる可能性もあるかとは思いますが、クラス数という意味では、現状ちょうどの人的リソースかと考えています。

市長：現在の定員を計画などで定めているのでしょうか。

様式第1号

森田次長兼学務課長：幼稚園管理規則に定めています。

市長：管理規則でこの人数になっており、クラスとしては担任数の関係で人数がこちらになり、40人ではなく数としたら16%ということですね。先ほど350万円という数字が出てきましたが、全園と全園児で単純に割り返した数ということでしょうか。

森田次長兼学務課長：はい。令和7年5月1日時点の全園児456人を私立の幼稚園を抜いて経費を単純に割り返した数字になります。現状の園児数は若干増えています。

市長：園によっても、谷田部や島名のように多い園もあれば、少なくなっている園もある。園児数が少ない園でも運営コストがかかっているわけではなく、それほど変わらないということでしょうか。

森田次長兼学務課長：人的面で言いますと、園長、教頭とクラスに応じて基礎的な人員を配置しています。また、施設面につきましても、固定的な経費は、園児の大小にそれほど影響なくかかっています。

市長：つまり、15園あって16億円だから、各園で単純に割るとしたら約1億円かかっている、多少の人員費で増減はあるけれども、子供の数が100人いたら、1人100万円で、10人しかいなかったら1000万円になるというような理解でよろしいですか。

森田次長兼学務課長：園児数で割り返してしまうとそうなると思います。

市長：もう1つ確認しておきたいことが、今存続についての署名が出ているということですが、つくば市は公立幼稚園を0にしようということは全く考えていないという理解でよろしいですね。

森田次長兼学務課長：学務課です。これまでのあり方検討委員会の中でも、0にするということでの議論はしておりません。

市長：それは今後も変わらないですね。僕も0にすることは反対ですから。しかし、コストがこれだけ膨らんでしまっているのと、実際園児がいないの

様式第1号

で、ある程度の集約化は必要という議論をしているという認識で良いですか。

森田次長兼学務課長：あり方検討委員会ではそのような議論をしているところです。ただし、署名活動につきましては、第2回あり方検討委員会の後に、そのようなお考えがあつて動かれました。先ほどの第8年度の4月1日時点での人数というのを、お示ししたのが第3回ですので、このような状況が伝わっていない状態で署名などが行われていると思われまますので、そのような認識の差は次の委員会の方で埋めていく予定です。

市長：わかりました。他に確認したいことがある方はぜひ。

倉田委員：説明ありがとうございました。19ページに統廃合をして施設をまとめるという考え方で表が出ておりますが、こちらをまとめることは可能なのでしょうか。例えば、バス通にするとしても、園児が1時間近くもバスに乗っているのは難しいと思います。だからバスを増やすのか、それとも何か違う方法で登園できる方法を考えるのか、その辺をお聞きしたいです。

森田次長兼学務課長：課内の検討状況としては、仮に最北部の筑波、大穂を集約した場合ですが、現状通っているルートで賄えると考えております。少し広いエリアでの輸送を考えているピンク部分ですが、こちらにつきましても、現時点で一部園区外から、桜南に通っている方もいらっしゃいますので、エリアとしては、送迎が可能と考えております。

倉田委員：つまり、園児にはそれほど負担にならないと考えているわけですね。

森田次長兼学務課長：そういった考えでございます。

市長：それに関連して、そもそも何で市立幼稚園にバスがあるのでしょうか。

森田次長兼学務課長：現在バスを所有している園というのは、合併前に各市町村で送迎を行っていたものが現状も続けられているものと私の方では考えております。

市長：こちらは、運行規則や幼稚園規則などでバスを出すことになっているのでしょうか。保育園には、親が連れていきますよね。市立幼稚園がバスを出す

ことの合理性が理解できないなと思っていて、時代だったということでしょうか。昔はそれが当たり前で今も続いているということなのかな。

森田教育長：私が幼稚園生だった頃からバスはありました。昔は農家が多く、朝も夕方も忙しく、送迎できないので近くまで迎えに来てくれていたと思います。実際、私の母親や父親も朝から農業をやっていたので、そのような背景から、そのままずっと続いているのではないかと思います。

市長：他に何か確認したいことがあれば、どうぞ。

手打委員：3点ほど確認させてください。1 ページのつくば市立幼稚園のあり方検討委員会の文章が少し引かかる。2行目、冒頭で「つくば市では、つくばエクスプレス開通後、沿線開発に伴う人口増加が続いている。一方、公立幼稚園においては、女性の社会進出に伴う保育需要の増加等により年々園児数が減少しており」と書いてある。つまり言いたいことは、公立幼稚園では、園児数が減少していることを言っているのかと思いますが、その要因として、女性の社会進出に伴う保育需要の増加。増加はあるけども減少しているというのは、文脈的に矛盾しています。素直に考えれば、「女性の社会進出に伴う、保育所の増加にもかかわらず」などと、言うならばよくわかるのですがどうでしょうか。

学務課望月課長補佐：保育需要ではなく保育所の誤りですね。失礼しました。

市長：要するに幼稚園は教育機関ということですよ。保育所は選ばれているけれども、特に市立幼稚園が選ばれなくなっているということだと思いますが、確かに普通に読むと分かりにくいかもしれませんね。

森田次長兼学務課長：ご指摘ありがとうございます。

手打委員：それから8ページの3年保育と預かり保育に関する保護者のニーズ調査という結果が出ていますが、こちらの出典について「令和6年3月公表のつくば市子育てアンケート調査結果報告書より引用」と書いてあり、11ページに出展情報詳細ということですが、11ページ見ても出てこない。

様式第 1 号

森田次長兼学務課長：8 ページの出典情報詳細のページ数が間違えてしまっているようです。

市長：次のページでしょうか。

手打委員：ただ、こちらの質問が 21 とかになっている。だけどこちらの資料編ではそのような数字はない。

学務課菅原係長：お手元の資料のページ数に誤りがございまして、米印の括弧の 11 ページではなく、9 ページになります。次のページの、「保護者の就労状況の変化」の右側に出典情報を記載しております。大変失礼いたしました。

手打委員：分かりました。ありがとうございます。つまり、預かり保育に関する調査というサンプル数は、配布数が 2500 で、有効回答書回答数が 1336 の数値ということですね。

それから 3 点目は、資料編の 5 ページ、④のつくば市立幼稚園の状況でグループ園という欄がありますよね。グループ園というのが、その下に説明がありますから、職員の協力など運営上の連携体制をとっているグループだということ、例えば、大穂と桜と筑波が 1 つのグループということ、理解してよろしいですか。

学務課松尾幼稚園事業推進監：学務課です。今先生がおっしゃった園はバスがあり、例えばこの間も雪が降ったときにどう対応するかなど、施設的に似ています。なので、近隣の幼稚園がグループ園という形になっております。2 グループ園でも同様に、例えば極端な話、インフルエンザになってしまって、幼稚園を空けられないとなったとき、職員も限られた人数しかいませんので、誰かが助けに行けるように組んでいます。

手打委員：多分そうだろうとは思ったのですが、1 に関して見ればかなり広域的ですね。大穂と桜とそれから筑波、少し広域すぎないかなと心配になったのですが。

学務課松尾幼稚園事業推進監：つくば市はとても広い幼稚園なので、皆さんそ

様式第1号

それぞれ幼稚園の特色がすごくあります。中心部の幼稚園は徒歩園だったりするので、この3園に関しては、場所的なものやバス運行の有無などがとても似ているので、同じグループとしています。

手打委員：同じグループということは、日常的な運営で職員さんを派遣したり、派遣されたりなどの運営上の連携体制というのはどのようなことを考えているのでしょうか。

学務課松尾幼稚園事業推進監：各園に園長、教頭がいますので、運営としては、それぞれの幼稚園が行っています。

手打委員：今後の検討でも、このような形で限られた資源を有効に活用しようとグループ園をやっているのかと思いますが、そうすると統廃合とは絡んではいけないということですかね。つまり、日常的に運営を協力し合うことと減少に伴う統廃合は別に考えているのでしょうか。

森田次長兼学務課長：グループにつきましては、応急の対応や、そういった部分での園の運営上の協力体制ということで現状やっています。ただ、それも見直す必要もあるかと思いますが今回の集約化につきましては、グループ園については大きな材料とはしておりません。

手打委員：ありがとうございます。

市長：和泉さんや坂口さんも確認事項ありますか。

和泉委員・坂口委員：大丈夫です。

市長：では、議論に入りますが、先ほど出ていた中でも、減少しているとのことでしたが、特に民間が無償化になってから、落ち込みがすごく激しいようですが、なぜつくばの公立幼稚園は選ばれないのでしょうか。その分析が正しくできないと議論ができないと思うので、それぞれお考えを聞かせてもらえますか。

学務課松尾幼稚園事業推進監：まず保育時間はあるかと思いますが。私立幼稚園に関しては、保育時間も少し公立の幼稚園より短くなると思いますが、その

様式第1号

あとの預かり保育や課外授業などお子さんをそのまま幼稚園に預けた状態で、ピアノの教室や体操教室などのおまけの授業を滞在中にできるという部分が利点なのかなと思います。

市長：習い事部分は有料でしょうけど、基礎部分が無料になったということですよ。その中でつくば市も3歳児保育などは始めていて、3歳児保育の園はそれなりにニーズがあるということです。公立幼稚園を選んでいる人は、どのようなバックグラウンドの方が多いか、どのような方が積極的に、或いは何か別の理由で、公立幼稚園を選んでいるのでしょうか。

学務課松尾幼稚園事業推進監：私が勤務していた幼稚園になりますが、まず兄弟が通っているというのは1つあります。お兄ちゃんお姉ちゃんが以前、同じ幼稚園に通っていたから、雰囲気があるので通っている方や小学校との連携が公立幼稚園は密だということをご存じで、子供がスムーズに就学ができるようにと考える方。近隣で地域をよくわかっているので安心して預けられるといった方。また、お母様たちは就労してない方がほとんどですので、その辺も自分の子育ての時間として、大切な時間とされているので、働くよりも子供たちと一緒に時間を味わいたいという方が多い感じがします。

市長：民間の幼稚園に行く保護者はやはり就労している方がどんどん増えていて、幼稚園に入っているけれども、保護者は就労をしているから延長保育のニーズがあるので、市立幼稚園を選ぶ保護者の多くは働いていない方が多いということでしょうか。ただ、先ほどのデータを見ると働いていない保護者も多いが、働いている保護者の数も増えているということでしょうか。これは、就労の割合が市立幼稚園でも増えているということですか。

森田次長兼学務課長：こちらは、幼稚園の保護者の就労についてはありません。

市長：全体のアンケートだから幼稚園ではないのか。では、現在の市立幼稚園の保護者の就労割合のデータはありますか。

様式第1号

森田次長兼学務課長：データは持ち合わせておりません。

市長：分かりました。もう1つ公立が選ばれる理由として、お子さんに障害があり、民間で受け入れてもらえないなど個別に聞くことはあるのですが、それはどの程度で統計的なデータなどはありますか。

学務課松尾幼稚園事業推進監：学務課です。統計的なデータなどはないですが、私立幼稚園に1回行かれて、集団の中でうまくいかず、公立の幼稚園に入りたいとか、支援を要するお子さんにも度合いがあり、おうちにも保護者と子供だけなので、初めて集団生活して見えてくる部分があるので、そのような保護者は、公立幼稚園に後から途中入園される方もいます。それから吾妻幼稚園では、筑波大に留学されている方たちの外国籍のお子さんの率もかなり高いです。

市長：なるほどね。この例だと、まだ発達特性もそこまで見極められないタイミングだから、なかなか難しいですね。ただ、一定の受け皿にはなっていることは、事実としてあるということですね。

森田次長兼学務課長：参考までに資料編8ページの表が、公立幼稚園に通う園児の中で、特別な一対一の支援が必要な園児ということで掲載しております。

市長：この割合は、全市平均に対してどうなのでしょう。

森田次長兼学務課長：そのデータはありません。

市長：公立保育園での支援必要割合として見るとどれぐらいあるのかな。一般的に言われている数字より、少し高いという感じでしょうか。

倉田委員：よろしいですか。私も谷田部幼稚園の園長を2年務めさせていただきまして、その時は100人よりも多く、谷田部南小学校の児童よりも多く、障害のある子も受け入れていました。就学指導委員の人と連携をとり、定期的に面接を行い、保護者と会わせて、今後の方向性なども丁寧に行った記憶がございます。大体1クラスに2人程度は少し障害を持つ子もいたのではないかと思います。ただ、まだ幼児期なので、それがどのように変化するか、そ

れが障害かどうか、ボーダーラインの子もいたので、非常に難しい判断ではありましたが、保護者が心配で相談していただいた時には、必ずこちらも対応して、その保護者と一緒にその子供を見取りました。公立幼稚園に行っている家庭は、まず常勤でお母さんが勤めている方はいません。パートをしているお母さんはそれなりにいます。でも、2時くらいには帰すのでバスで送っていくにしても待機していただかないと子供を帰すことができないので、お母さんはある程度自由な時間を確保できる保護者でないとなかなか公立幼稚園には預けられないのが現実だと思います。まだお迎えに行けないというときには、園に子供を置いていたことも何回かありました。ただ、一番のネックは、共稼ぎで家庭も3世代でもないのも、別の人が対応できるという環境がないことが一番大きい原因かなと思います。だから、3年保育をやることも延長保育も求められていて、今の社会のスタイルからすると、保育園の方に流れてしまっているのだと思います。ただ、幼稚園の教育は質が高いと思います。非常に良い教育をやっていることは事実です。なので、そういう面での問題ではなく、結局預かる時間の問題が一番のネックだと私は感じています。

市長：ありがとうございました。では、幼稚園をやっている坂口さんから。ここから先は自由にディスカッションできれば。結論は出しませんのでそれぞれ思うところを語っていきましょう。

坂口委員：ディスカッションの前に参考としてお話ししようと思ったことがあります。公立幼稚園が選ばれる理由の1つとして、私がやっている施設も時間は9時から14時です。先ほど言ったようなフルタイムで働いているご家庭は難しいという方が大半です。認可外保育施設であり、かつ野外という特色ある園をやっているのですが、公立幼稚園とどちらに行くか迷う方が見学にかなり来られます。それはまだ7年間の中での数なので、全体としてはそれほど多くないのですが毎年来られます。なぜその天秤にかかるのかと考えた

ときに、公立幼稚園も人数が少なく、同じ少人数施設で比較しているということをおっしゃられる方が結構います。なので、質の高さという意味で丁寧に子供を見てくれる。そして、保護者と話せる距離が近い感じがするという部分が良いと思う方は、現在の人数が少なくなった公立園に魅力を感じているのではと思います。

市長：坂口さんのところに来る方達も、就労はされていない方たちが多いのでしょうか。

坂口委員：もともとは多かったのですが、保育無償化になった後は、自営業の方やパートタイムの方は結構増えました。なので、14時までにお迎えに来られる方は多いです。

市長：この人数ですから間違いなく手厚いですよね。ただ、それは物事の裏返しで、先ほどのかかっているコストを考えると、他の保育園や別の事業などに対する税金の入り方とは相当アンバランスになっているなどは思います。悩ましい部分です。その上で、どう思われますか。この現在の市立幼稚園の状況と今後ある程度集約化をしていきたいという方向性ですけれども。

坂口委員：先ほどお話しをいただいた中で、集団保育だから質が高いものができるかと全体を通して感じました。集団保育の良さもあると思いますが、先ほど言った少人数だからこそその良さもあるので、集団だから質が高いものが保てるというのは、少し考え方が極端かなと感じてしまった部分ではあります。私の施設も3人だった頃は、みんなで円になってとか鬼ごっことかは難しいと感じていました。しかし、人数が少ないからこそ、子供たち同士のやりとりが目に入るので、様々な状況で一人一人に声をかけることができたり、大人がその一人一人の子供の声をしっかりと聞けるので、その子自身に向き合える機会がとて増えます。それは、その子自身を受け入れる機会になるので、子供にとって自身が認められた感覚に繋がります。今つくば市教育大綱の一番初めにある、「一人一人の違いを受容し」という部分にすごく繋がるなと思

うので、つくば市教育大綱をすごく丁寧に見ると、少人数の方が教育大綱に合っているのではないかと感じました。確かに集団の良さはもちろんありますが、集団とは何人からかという部分は検討する必要があると思います。個人的な感覚では、8人を超えると集団遊びができると思います。3歳児は発達上、まだ意識が自分に向いていますので、一人一人を見るという意味では人数が少ない方が良いです。先ほどあった1学級6人以上、幼稚園全体で16人以上を維持することは望ましいというのは確かに感覚的に集団遊びをする上で成立する人数という感覚はあります。ただ、人数が多くなると、それに伴って一斉保育になっていくので、全員同じような行動をしないと、先生1人当たりの負担が大きくなってしまうと思います。なので、15人以下は休園というのは、少人数の良さをすごく感じている身としては、人数を再度検討しても良いのではないかなと思います。

あと、2点あります。3歳児保育で1年増やすことは良いと思います。時代のニーズももちろんありますが、大人自身もやりたいことが増えているという場合もありますし、おそらく働いている方たちの育児休業の期間の問題もあるのかなと思います。0歳から2歳児のイベントをよくやっていますが、よく聞く話で、復職したときに3歳時点だと満員で入れないから0歳のときから申し込むという方は多いです。

市長：保育園の話ですね。

坂口委員：そうです。0歳から2歳のときに入園先を決めて、働き方や子育てに対する時間の作り方を考えることはやめてしまう方は結構多いという印象です。なので、3歳児の学年も増えるとそこの選択肢は少し幅広くなるかなと思います。また、幼稚園前の親子向けのイベントを行ったときに思いましたが、結構3、4歳の幼稚園に入る予定の親子が多かったです。お母さんもお子さんが元気いっぱい、おうちで見られないから、外に行くという方も多かったです。それぐらいの年齢になると家だと体力を持て余してしまうから

3年保育の公立園があると入園者は増えるのかなと感じます。

3点目に教育委員として、この場に関わらせていただいても思うことが、地域の連携が小学校教育でとても大事だなと感じており、保護者の子育ての不安や学校に対する不安などが非常に大きいから、不登校や保護者とのトラブルが多くなっていると感じます。学校に入ってからだと、子供は自分で動き出しますし、保護者もすでに働いていたり、自分の子供とは別の生活を始めているので、保護者との信頼関係や教育など子育てについて語り合い考える機会は幼児の間だけだと思うと、公立園は子育てや教育について学び合う拠点になると思います。つくば市教育大綱の非認知能力の部分も含め、しっかり話せる場として、幼稚園が拠点になり、小学校入学前の保護者と教育者が語り合える機会があれば良いと思います。地域社会との連携も学校からだと入りにくいかもしれませんが、幼稚園なら関わりやすいという地域の大人もたくさんいると思いますので、地域社会と繋がる場になるべきだと思います。

市長：ありがとうございます。最後の点は、教育局も現在そのような認識でよろしいでしょうか。資料の10ページにも幼児教育の拠点園であるべきだということが議論で出ていますしね。坂口さんがおっしゃったことも幼保小の話も機能として当然必要だという認識でよろしいでしょうか。

森田次長兼学務課長：はい。10ページにつきましては第2回検討委員会の中で提示させていただいた資料で、例えば20ページにも公立幼稚園のアピールポイントとして、地域学校行政との対話協働の推進といただいておりますので、そういった考えでございます。

坂口委員：どちらかというと、こちらを盛大にしても良いのかなと考えております。まず、子供の人数は減っているし、ニーズが変わるごとに合わせようとすると、中途半端になってしまうので、地域と一緒に子育てについて考える場と小学校との連携も含め、そのような教育拠点となる役割になるといいな

と思います。

市長：それはどのような状況でしょうか。

坂口委員：私も今回、これというものを具体的に提示できないですが、幼稚園というのは、保護者と話せる距離が近いという印象です。それはすごく安心感が生まれるものだなと感じています。それはどのように広がるかなと考えています。

手打委員：よろしいですか。今おっしゃった、幼稚園は保護者とのコミュニケーションが取りやすいというのは、保育所では違うという意味ですか。保育所とは違う、幼稚園の教育性というものでしょうか。

坂口委員：保育所も様々な形態がありますので、密にやっているところももちろんあるとは思いますが、幼稚園はイベントの数や保護者同士の繋がりが多い印象がありまして、保育園の場合は働いていて忙しい保護者が多く、パッと行って帰ることが多いので、幼稚園の保護者に比べると、保護者間の会話時間の違いはかなりあるのではと思います。そこで保護者同士が話す機会という時間的ゆとりがある分、「お宅の子どうなの、こうなの」と話す機会が多いので、割とそこが小学校に入るときの情報共有や学校を知る機会になり、不安も減るのかなと思います。もちろん保育園がそうでないということではないです。保育園でもコミュニケーションを特に大事にしている園もありますので。

手打委員：子育てをしている親のニーズというのは、そちらの立場から考えたときに、つくばの保育園の人数は結構埋まっている。統計データで見るとそれに対して幼稚園は減少している。そういう意味での議論をしているかと思いますが、公立幼稚園が果たす役割はどういうことで保護者の要望をどう満たすかの部分が、ある意味では、働き方のことも含めて、そう簡単に割り切れないところがある。それで、保護者のニーズから考えたときに、子育て中の親たち、しかもつくばの場合、働いている女性が増えており、子供をできるだけ

早い段階で、3歳児から預けたいというニーズはあると思います。ただ、それに幼稚園が今のところ答えきっていない。つまり幼稚園が定員を満たしていないということは、公立幼稚園でなく、民間保育園や或いは民間幼稚園へセレクトしているのではないかと思います。少なくともニーズに応えきれていない状況があるがゆえに仕方なく、保育所や或いは民間の幼稚園へ流れている。もう一方で、公立幼稚園が果たしている役割はもちろんあるし、地域の拠点であったり、ある意味では先導的な幼児教育の開発などをしていくところ。公立幼稚園の役割というものは、民間の幼稚園でできない小学校との連携などが公立幼稚園の持つ魅力だと思います。今、私もどのように考えれば良いかまだ迷っていますが、そのような見解もあるということ踏まえて今後検討して欲しいということですよ。おっしゃられるように、人数が少ないから集約化というのはどうなのかという疑問もあります。

市長：和泉さんいかがですか。

和泉委員：はい。私は10ページ11ページを読みながら検討してみました。数字を見れば選ばれていないことは明白ですけど、新たなニーズが生まれているのも事実だと思います。私立から辞めて移ってくる子もいたり、すぐに車を持たない外国籍の家庭がある場合に歩いて親子で通えるところは一番安心できる場所として選びやすいと思います。なので、公立の幼稚園の存在意義を考えたときに、皆さんがおっしゃるように一定の人数を見て、集約化することはやってはいけないとすごく思います。これから考えるべきは、数値の設定をどう考えたら良いかだと思います。そこは先ほど坂口委員が言ったように小規模だからこそ教育大綱に準ずる部分を実現できる潜在性をすごく持っているのではないかと感じています。なので、10ページの地域①の「地域のモデルとなるような」というのがすごく魅力的に感じました。つくば市の公立なのに、このような幼児教育を受けられるのかという点をどこに見出すか。私自身は自由保育なところに通っていたのですが、考え方の基本として

は、とにかく遊び尽くす。幼稚園のアルバムを見ると、ドロドロになっていたりとか、外でみんなとスイカを食べていたりとか、冬でも乾布摩擦をやっていたりとか、そういった幼児教育を受けられて非常に幸せだったと思い起こしていました。例えば、つくば市の公立幼稚園で森の幼稚園を展開するとか、子供たちがたくさん遊べるように自然環境を整備したりなど、小規模だからこその可能性を秘めているし、それができたらいいなと考えていました。

市長：森田さんどうですか。

森田教育長：私が県南教育事務所の指導主事になったときに初めて、公立幼稚園で指導する立場になりました。その時に初めて幼稚園にも教育要領があることを知りました。実際に幼稚園に行き、普段の保育を初めて見たときに、先生たちはとても意図的に子供の気づきを促したり、学びに繋げたり、人間関係の声かけをしており、公立幼稚園の凄さを実感しました。なので、やはり公立幼稚園の良さは現在もあるので、それは続けていきたいと思います。そのような魅力をもっともっとアピールしていきたいと思い、ホームページの改革など何年前にやりましたが、なかなか成果が上がらないということは、やはり保護者のニーズは長時間保育してもらえるかどうか優先されているのではないかと思います。少人数の方が良いけども少人数過ぎてもいけないと思っているので、ある程度の人数は確保したほうが良いと思います。それと、ニーズに合わせて3年保育や預かりをやることは、魅力を大きくする方策なのでぜひやりたい。ただ、やるためには人がいなくてはできない。しかし、人はなかなか増やせないなども相まって、その両方を考えると、少なすぎる幼稚園は統合し、人材を捻り出して、預かり保育や3年保育をやるしかないのではないかという考えです。ある程度の人数、そして地域を統合し、保育時間の延長を行い、バランスを取りたいと考えています。

市長：ありがとうございます。

倉田委員：よろしいですか。今教育長が言われたことは私もそう思います。公

立の良さは、職員が非常に細かく子供一人一人を見ています。だから、どう声をかけたら、この子は動くと分かっている。ただ当時、ネックになっていたのは、指導日誌をすごく細かく書くことです。一人一人の行動を大変詳細に記入し、今後の対応まで細かく記載する。これは、本当に必要なのか、これほどまで時間をかけるなら、延長保育にしたほうが良いのではないかと思ったほどです。私は幼稚園を経験して、小学校と連携していることが、一番良いと思っています。谷田部幼稚園は谷田部南小学校と校舎が一緒になっており、小学生と一緒に活動できる機会がものすごくあります。小学校の学校行事には、幼稚園の子供たちも参加したり、見学したり、できれば一緒に活動したり、幼稚園公開や発表のときも小学生を呼んで一緒に交流しました。そうすると、園児たちも自分の将来が想像できる。自分たちも小学校に上がるとあのようになることを見ることができる。ただ、残念だったのは、うちの園児は100何人もいるのに、連携していた谷田部南小学校に入るのは12、13人程度だったと聞いて、それは問題かなと思いました。ただ、公立幼稚園の理想形は小学校と一緒に連携して活動できる点であり、そういった環境を与えたほうが良いと感じています。

森田教育長：統合するとその強みがなくなってしまうというのが悩みです。

地域や学校と一体になっている幼稚園がなくなってしまうのはどうなのかという点は少し矛盾を感じています。

和泉委員：すごく自分の視点も含めて気になったのが、大人の事情だけで考えてしまっているのかなという思いがあり、例えば、倉田委員が最初に質問したように、長い時間のバスが、子供にとってどうなのかという視点や、どのような幼稚園だと楽しいのかとか、そこをもう少し知りたいです。例えば、公立幼稚園に通った子供に「幼稚園どうだったの」とか、或いは、子供が公立幼稚園に通った保護者に「その時どのような関係性が築けてどのような部分が助かって、どのようなことが問題だったのか」を把握しながら、幼稚園で過ごす

子供たちの気持ちをもう少し知りたいと思いました。

市長：そういった調査はありますか。

森田次長兼学務課長：現時点では、調査ではないですが、今回ご提案させていただいたのもまさに子供第一ということを考えての集約化等の検討となっています。委員会の方でも少し話しておりますが、例えば、2人の集団になった時にそこで社会性などを形成するには限界があるという意見も出ていますし、副委員長の神永先生や現場に長くいる松尾からも集団生活が大変だということがありましたので、今回の提案をさせていただきました。松尾先生補足よろしいでしょうか。

学務課松尾幼稚園事業推進監：今の幼稚園は、確かにお子さん達が少ないのでとても手厚いとは思いますが、ただ、手厚いがゆえに、やり過ぎてしまう部分があり、それは教育としてどうなのかという部分がすごく難しく、先生たちもとても保育に難しさを感じています。外国籍のお子さんが出て、日本語が話せないお子さんもいたり、多様性の中で子供たちの成長を生み出していくのは、教育要領の中で謳っている人間関係5領域の人間関係の中で、神長先生も幼児期は他者との相互作用を通して社会性や自己調整力を育む時期であり、一定の規模の集団の経験は発達上、重要な意味を持つと考えられています。なので、ある程度の人数は必要かと思えます。3人程度のお友達で遊んでいたとしても、より多くの人数がいないと友達同士のトラブルが発生しない。また、幼児期ですと、友達のモデリングがあるので、模倣していくと思います。園児が少ないと、それができない。トラブルがあったときに、子供自身の調整力も様々なお友達が出て育まれると思います。そのように子供の視点で考えています。

森田次長兼学務課長：少人数もちろんメリットが大きいですが、少なすぎることのデメリットを考え、今回、一定の基準16人というのを設けさせていただきました。ただ、この16人の基準につきましても、3歳児が入ったときに

様式第1号

どうなのかと委員会からありまして、16人という人数についても今後考えていきたいと思っています。

市長：いろいろお話いただいて、ありがとうございます。公立幼稚園が果たすべき役割がどのようなことか何となく見えてきたと思います。最後に、私も別の場所で議論をして答えきれなかった部分なので、ぜひ皆さんにお考えをお聞きしたいのですが、先ほど少人数のメリットを強調されている一方で、現在、公立幼稚園に来ている親の属性としては、困難があったり、発達に課題があるケースや、外国にルーツがある子たちの行き場所としてもとても大切なものになっている。合わせて就労されてない時間がある方という部分で、ある意味、公立幼稚園を主体的に選べる方というのが、かなり限定されている状況という話がありました。そこに対して、他の事業と比べて1人当たりのかかっているコストがとても大きい中で、どのように公立でやる公平性を考えたら良いのか、少し悩ましいと思っています、どうお考えになりますか。この数字で言うと2割の働いていない方の中で、さらに公立を選ばれる方がそのうちの何割になるのか。もちろん予算がすごくたくさんあれば、どんどん手厚くしたいし、僕自身も皆さんと同様、少人数教育の方が丁寧に行けるといえるのは前から思っておりますので、学校が小さくなくても基本的には統廃合しない方針で、小規模特認校等々作り、いろいろな選択肢を考え行ってきました。例えば、「保育所に行っている保護者は忙しいからゆとりがない。だからこそ幼稚園ではコミュニケーションがたくさんとれる方が良い」というのは、本当にそれで良いのだろうか。であれば、行政全体で見ると、保育所でもコミュニケーションを取れるようにしなければいけないのではないかと思います。公立幼稚園の得られるメリット、恩恵が行き渡る対象が、限定的なことに対して、行政の長として見ると、ここにどんどん投資をすることと、或いは別の場所に投資をして、別の形のゆとりを作っていくのと、一体何が正しいのかというのは非常に悩ましいと思っています。何か残りの時間

で皆さん、少しお考えだけ聞かせていただければと思います。繰り返しますが、何か結論を出すものではないです。

手打委員：この議論を聞いて、幼児教育ということからいけば、民間幼稚園もあり、親から見れば、様々なことを考えて選択しているわけですが、つくば市として、幼児教育を考えていくときに、公立幼稚園とともに、民間それから保育園も含めて、全体としてどのようなサービスをしていくのか。そして、今、公立幼稚園の場合に、様々な特性を持った民間幼稚園では引き受けられないようなお子さんや外国籍の方。それから保護者に時間的な余裕があるかどうか、そのようなニーズにある意味では特化する。つまり、民間では対応できない部分を公立が対応するやり方も1つかなと思います。つまり、民間も公立も一緒になって同じようなところへ向かうのではなく、すみ分けをしていくという考えも良いのではないかと思います。

和泉委員：よろしいですか。2年前に松代幼稚園へ保育指導案と実践事例を配付されて、見学に行ったことがあります。研究主題が「協働的な活動を通して関わり合い、ともに育ち合うための援助のあり方で、ともに育ち、ともに遊ぶ遊ぶインクルーシブ保育を目指して」というものでした。そもそもこちらのクラスの人数は何人だったかと今見てみたら、例えば、さくら組は13名、そら組は19名、たんぽぽ組は14名。若干の幅を持たせることは、大事なかなと思いました。この指導案とか実践の事例を見ると、先生たちがものすごく丁寧に子供を一人一人見ている、子供のここに課題があるということを、先生同士で悩みながら、一つ一つ考えていく様子が記されていました。例えば、外国籍の子供に対して、初めは、子供がこういった発言をしたけれども、みんながよく話し合い、その子のこと、文化、言葉などを子供同士で知るようになっていく様子とか、発達にやや遅れが見られる子供に対しても、子供同士でこういうことをやってあげれば良いと学んでいく様子が記録されていました。公立幼稚園ではこのようなことができる、すでに実践している強みをこれか

様式第1号

らもう一度見直すべきと思ったので共有しました。

坂口委員：私自身も公立園の先生方がどのような保育をされているのか公立幼稚園に行っている保護者や子供から聞いた様子で、すごく楽しく丁寧に結構充実してやっている場所だなと感じたのですが、いま皆さんの意見を聞き、質の高い教育をされているなとより感じました。ただ、先ほども話題になったように、大多数が保育園に行っているので、保育園に行っている保護者の方もどのようにしたら公立幼稚園で受け取れるメリットを受けられるかという思いが常にあります。小学校に上がるにあたってのメリットはすごくあると思います。また、保育所と幼稚園が合わさったらどうなるのかと思う部分もあります。今、私立は認定こども園になっていますが、公立も保育所と幼稚園を一緒にしても良いのかなと思う部分もあります。そうなれば、両方のメリットを共有できるのではと感じております。

倉田委員：いま坂口委員が言ったように保育園も幼稚園と園児はほとんど同じような活動をしています。だから内容的に活動状況はほとんど変わらないかと思えます。なので、結局は、園児数の大小が問題ではないと思っています。人数少ないから良い、人数多いからだめ、そういうことではなく、その中でどういう関係づくりを子供たちがお互いしているかの活動状況の内容が重要だと思います。それで一人一人子供が円滑にお互いを理解しながら成長していく。そのような環境に置かれれば、どこに置かれても問題はないと思います。つくば市はどうしたらいいかというと、ある意味すみ分けしてもいいのかなと。保育園にどうしても行かざるをえない場合には、保育園へ。公立幼稚園なら公立幼稚園へ。良い意味での共有を図って、お互い持っている良さを提示して、それぞれに選択させれば良いかと思えます。つくばの中で、幼児をどう育てていくか、どのように今後考えていけば良いかの部分が一番の課題だと思っています。

市長：ありがとうございます。では、森田教育長からもお願いします。

様式第1号

森田教育長：今までの話を聞きながら、幼稚園も保育所もそれぞれの良さがあるなという思いの中で、保護者はどのように預ける場所を決めるのかを考えておりました。保護者が選べる体制、保護者のニーズに合わせたところを作ることも平等かなと思うので、一律に決められないと思いました。ただ、幼稚園と保育所のミックス型もあるのでこども園という考え方もあるなと思いました。

市長：ありがとうございました。ちょうど時間になりましたのでこの辺で閉じますが、本日いろいろ最後に出たように、全体として子供がどう育っていくかということはとても大事な視点ですし、私の下の子供2人は保育園に行っていました。そこでまさに、自然や様々な体験をしていたので、そこに優劣はないと常に思っています。保育園も素晴らしい活動をしていますし、民間の幼稚園も特色を出しながら差別化していると思いますので、そのような中で、どういったあり方を考えていくのかが大事という部分と、どうしても財政は無尽蔵にありませんので、人も財源も限られている中で、その最適解をどこに見いだすかなのかなと思っています。本日の議論は、冒頭に説明してもらったあり方検討会にこのような議論が総合教育会議であったと、しっかり共有をしてもらって、あり方検討会で議論を進めてもらうと良いのかなと思いました。とても活発な議論ありがとうございました。以上で終わりたいと思います。

事務局（教育総務課）：それでは以上をもちまして、本日の会議は終了といたします。今回の会議で本年度の総合教育会議は終了となります。来年度の予定につきましては、決まり次第またご連絡差し上げます。皆様本日はお忙しい中ありがとうございました。お疲れ様でした。

令和7年度(2025年度)第7回つくば市総合教育会議次第

日時：令和8年(2026年)2月25日(水)

午後3時00分から午後5時00分まで

場所：本庁舎5階 庁議室

1 開会

2 議題

公立幼稚園の在り方について

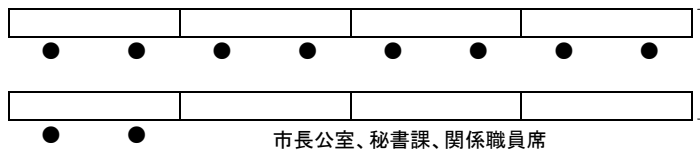
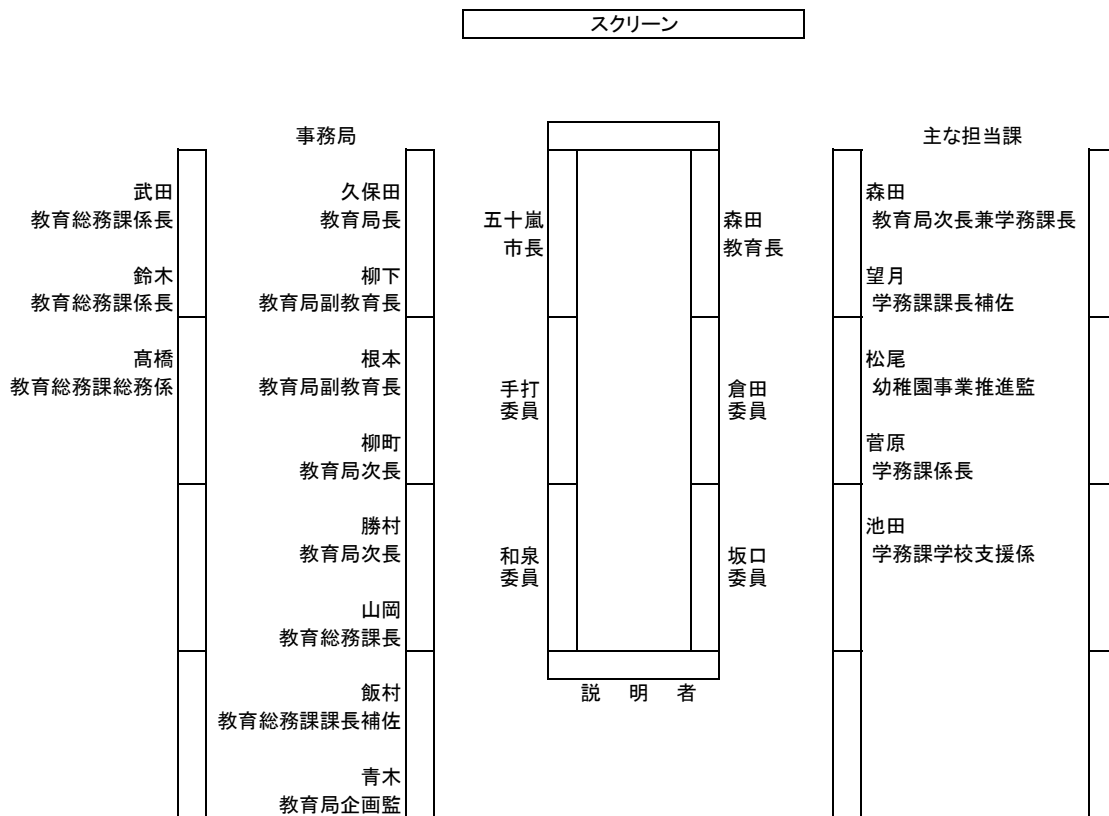
3 閉会

事務局：教育局教育総務課

つくば市総合教育会議 構成員名簿



職 名	氏 名
市 長	五十嵐 立青
教 育 長	森田 充
教育委員会委員	倉田 廣之
教育委員会委員	手打 明敏
教育委員会委員	和泉 なおこ
教育委員会委員	坂口 まり



総合教育会議 配置図 (R8.2.25)







第7回総合教育会議 つくば市立幼稚園のあり方について

- 
- 
- (1) つくば市立幼稚園のあり方検討委員会について・・・P. 1
 - (2) つくば市立幼稚園の現状と課題について・・・P. 4
 - (3) つくば市立幼稚園に求められる機能や役割について・・・P. 10
 - (4) つくば市立幼稚園が維持すべき機能について・・・P. 12
 - (5) 令和8年度予定園児数及び学級編制について・・・P. 13
 - (6) つくば市立幼稚園のあり方について・・・P. 16




令和8年（2026年）2月25日（水）



教育局学務課




(1) つくば市立幼稚園あり方検討委員会について



つくば市では、つくばエクスプレス開通後、沿線開発に伴う人口増加が続いている。一方、公立幼稚園においては、女性の社会進出に伴う保育需要の増加等により年々園児数が減少しており、定員を大きく下回る状況が続いている。また、平成27年度からの子ども・子育て支援新制度の施行や、令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化の実施など、幼児教育を取り巻く政策や環境は大きく変化している。

このような中、つくば市教育大綱が掲げる「一人ひとりが幸せな人生を送る。」という最上位目標を幼児教育においてどのように実現していくか、現在市立幼稚園が抱える課題にどのように対応していくかは、幼児教育の充実を推進していく上で、重要な施策である。

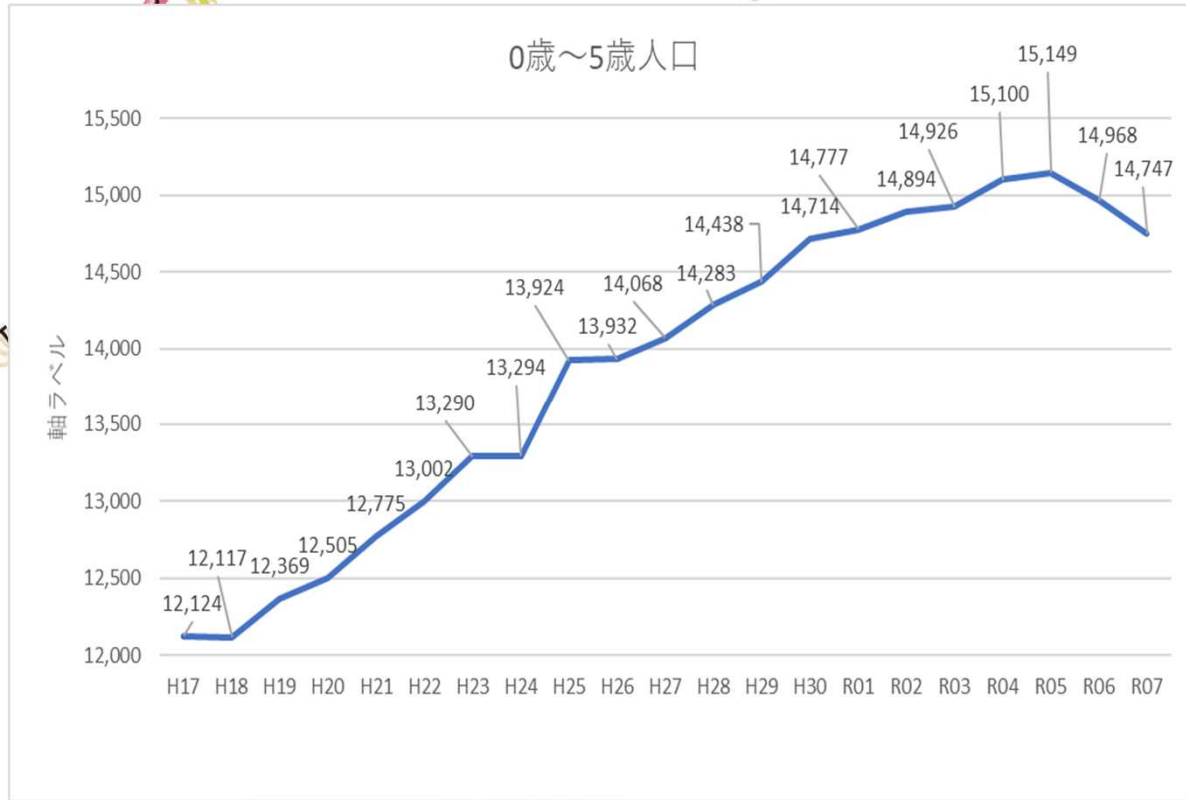


本検討会では、将来に向けて、公立幼稚園に求められる機能や役割を再整理するとともに、少子化等の社会情勢及び利用者ニーズを踏まえた効果的・効率的な公立幼稚園の運営体制等を検討していく。



0歳～5歳の動向

(各年度5月1日時点)



0歳～5歳年齢別人口 (令和5年度から令和7年度)

(単位：人)

	R 5	R 6	R 7
0歳	2,253	2,148	2,133
1歳	2,409	2,400	2,306
2歳	2,460	2,476	2,470
3歳	2,661	2,544	2,513
4歳	2,631	2,695	2,592
5歳	2,735	2,705	2,733
計	15,149	14,968	14,747

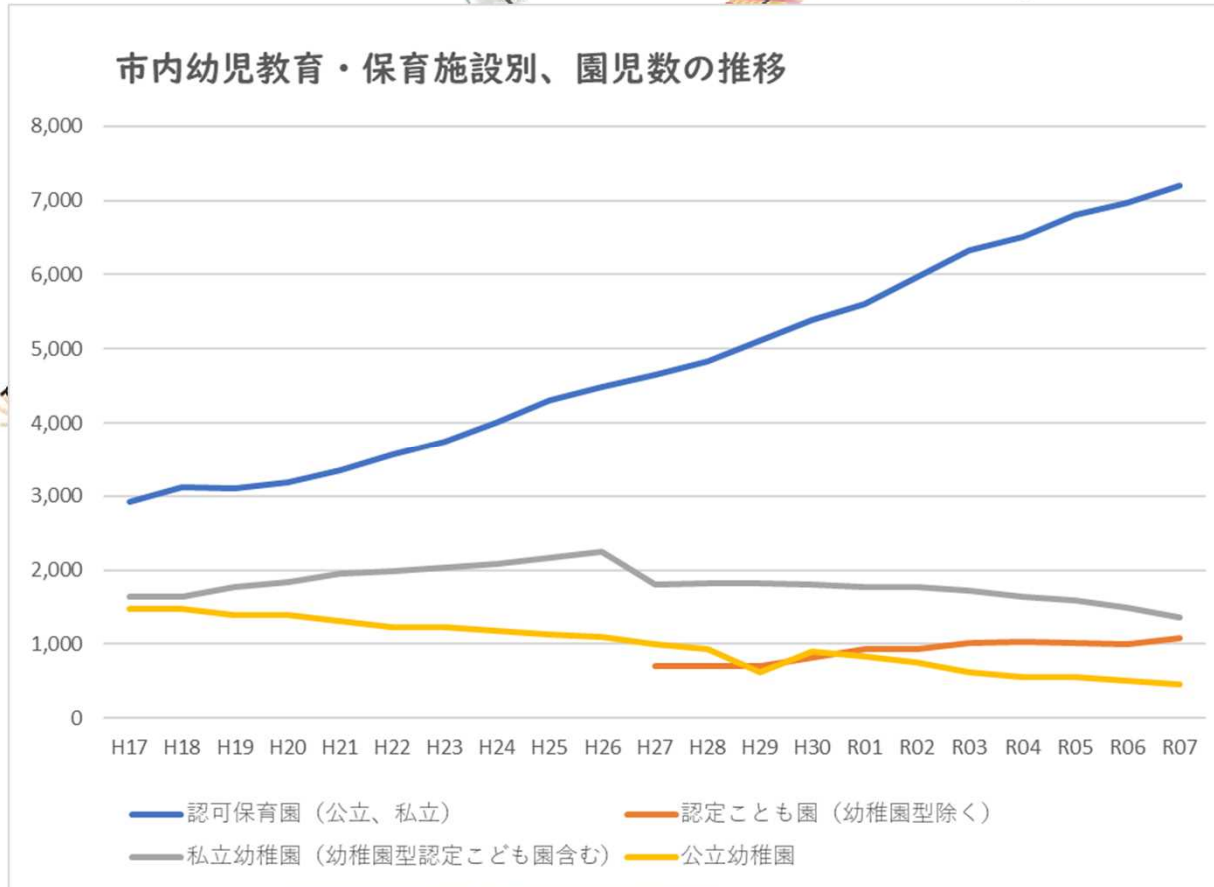
【住民基本台帳より学務課作成】

つくば市立幼稚園あり方検討委員会スケジュール（案）

スケジュール	議事の案
第1回委員会 令和7年9月26日	(1) つくば市立幼稚園のあり方検討委員会について 委員会開催要項、検討の目的、上位計画、人口推移、スケジュール案 (2) つくば市立幼稚園の現状と課題について 園児数の推移、幼稚園の設置、運営の状況、私立幼稚園の課題
第2回委員会 令和7年11月頃	(3) つくば市立幼稚園に求められる機能や役割について 3歳児保育、預かり保育、幼児保育の多様化について (実施状況、拡充の検討)
第3回委員会 令和8年2月頃	(4) つくば市立幼稚園のあり方について 今後のあり方について (地域の幼児教育施設として果たすべき役割など)
第4回委員会 令和8年6月頃	(5) つくば市立幼稚園の適正な配置について 幼児教育における適正規模の考え方、つくば市幼稚園の適正配置 提言骨子
第5回委員会 令和8年9月頃	(6) つくば市立幼稚園のあり方（提言）について 提言まとめ

- ・令和8年11月頃 提言を教育委員会へ提出
- ・令和9月1月頃から、教育委員会で詳細なつくば市立幼稚園再編計画の策定開始

(2) つくば市立幼稚園の現状と課題について



〇5歳児の内訳

区分		年度		
		R 5	R 6	R 7
公立保育園		365	354	330
私立認可保育園		986	1,041	1,098
認定こども園	保育園型	19	22	18
	幼保連携型	241	252	299
	幼稚園型	147	129	130
私立幼稚園		499	483	373
公立幼稚園		283	283	243
その他 (認可外保育園等)		195	141	242
計 (住民基本台帳)		2,735	2,705	2,733

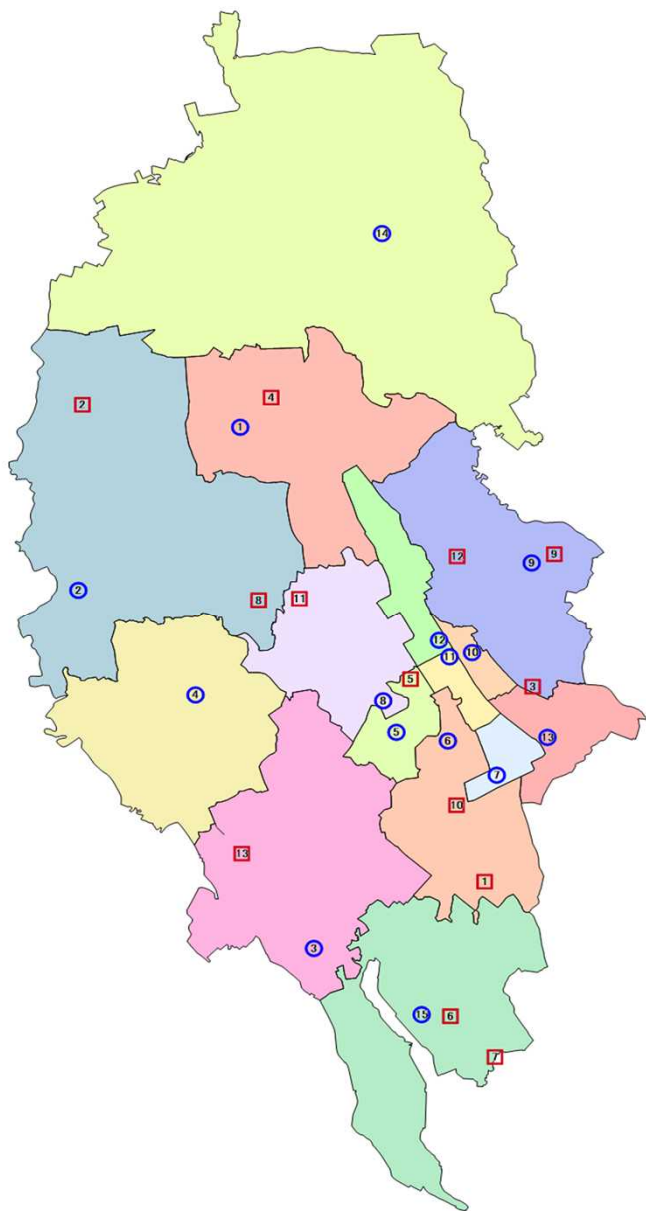
※その他は、計との差額。

定員の推移及び現在の定員に対する充足率

令和7年5月1日現在

	園名	定員推移				3歳児		4歳児		5歳児		合計		現在の定員に対する充足率
		R3年度まで	R4年度	R5年度	R6年度から	園児	クラス	園児	クラス	園児	クラス	園児	クラス	
1	大穂	140	120	120	60	/	/	14	1	10	1	24	2	40%
2	上郷	140	120	120	60	/	/	4	1	4	1	8	2	13%
3	谷田部	210	180	180	180	/	/	40	2	49	2	89	4	49%
4	島名	105	90	90	60	/	/	23	1	16	1	39	2	65%
5	手代木南	210	180	180	78	18	1	13	1	18	1	49	3	63%
6	二の宮	210	180	180	60	/	/	16	1	12	1	28	2	47%
7	桜	210	180	180	60	/	/	3	1	7	1	10	2	17%
8	竹園東	210	180	180	60	/	/	12	1	22	1	34	2	57%
9	吾妻	210	180	180	60	/	/	10	1	17	1	27	2	45%
10	桜南	210	180	180	60	/	/	5	1	17	1	22	2	37%
11	竹園西	140	120	120	60	/	/	12	1	13	1	25	2	42%
12	筑波	140	120	120	60	/	/	6	1	9	1	15	2	25%
13	東	140	120	120	60	/	/	8	1	6	1	14	2	23%
14	松代	140	120	120	60	/	/	10	1	20	1	30	2	50%
15	荃崎	/	/	156	108	13	1	10	1	19	1	42	3	39%
	高崎	210	180	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	岩崎	210	180	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	計	2,835	2,430	2,226	1,086	31	2	186	16	239	16	456	34	42%

これからの
やさしさの
ものさし
つくばSDGs



○市立

(園児数: R7年5月1日時点)

番号	施設名	住所	園児数	定員数 (R7)
1	大穂幼稚園	篠崎557-1	24	60
2	上郷幼稚園	上郷2499	8	60
3	谷田部幼稚園	境田191-1	89	180
4	島名幼稚園	島名537-1	39	60
5	手代木南幼稚園	松代4-16-2	49	78
6	二の宮幼稚園	二の宮4-9-3	28	60
7	東幼稚園	東2-27-1	14	60
8	松代幼稚園	松代2-18	30	60
9	桜幼稚園	栄296	10	60
10	竹園東幼稚園	竹園3-12-1	34	60
11	竹園西幼稚園	竹園1-15-2	25	60
12	吾妻幼稚園	吾妻2-12	27	60
13	桜南幼稚園	並木4-7-4	22	60
14	筑波幼稚園	平沢80	15	60
15	荃崎幼稚園	小荃798-1	42	108
計			456	1,086



□私立

(園児数: R7年5月1日時点)

番号	施設名	住所	種別	園児数	定員数※ (R7)
1	アカデミア幼稚園	下横場425	幼稚園	31	360
2	吉沼幼稚園	吉沼4138	幼稚園	348	420
3	あおば台第二幼稚園	上ノ室305-3	幼稚園	149	210
4	いなほ幼稚園	前野1860-1	幼稚園	386	420
5	つくば白帆幼稚園	小野崎427-1	幼稚園	97	210
6	認定こども園みのり	高崎643-9	認定こども園(幼保連携型)	195	232
7	成蹊幼稚園	天寶喜663	認定こども園(幼稚園型)	205	270
8	豊里もみじこども園	土田13-34	認定こども園(幼保連携型)	157	280
9	認定こども園栄幼稚園	松塚667	認定こども園(幼稚園型)	138	210
10	つくば中央保育園	赤塚480-7	認定こども園(幼保連携型)	78	81
11	学園の森こども園	学園の森2-14-6	認定こども園(幼保連携型)	88	75
12	みどり流星こども園	柴崎818-1	認定こども園(幼保連携型)	81	90
13	かやまるこども園	上萱丸154-1	認定こども園(幼保連携型)	73	75
計				2,026	2,933

※1号認定及び2号認定の認可定員数




公立幼稚園の課題

○保護者の就業状況の変化による保育ニーズの高まり

- ・ 3歳児保育や預かり保育の実施

○幼児教育の多様化

- 
- ・ 特別な支援が必要な子ども
 - ・ 外国にルーツを持つ子ども など

○園児の減少

- 
- ・ 小規模園の継続について

○施設（園舎、送迎バス等）の老朽化

○維持管理コストと人的リソースの確保



3年保育と預かり保育に関する保護者のニーズ調査

問21 現在、利用している、利用していないにかかわらず、今後、定期的にご利用したいと考える事業は、次のどれですか。
(あてはまる番号すべてに○)
※これらの事業の利用には、一定の利用料がかかります。

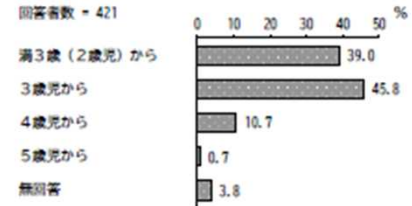
「認可保育所」の割合が53.6%と最も高く、次いで「認定こども園」の割合が21.6%、「私立幼稚園」の割合が19.8%となっています。
平成30年度調査と比較すると、「認可保育所」の割合が増加しています。



※1：平成30年度調査には、選択肢がありませんでした。
※2：令和5年度調査には、選択肢がありませんでした。

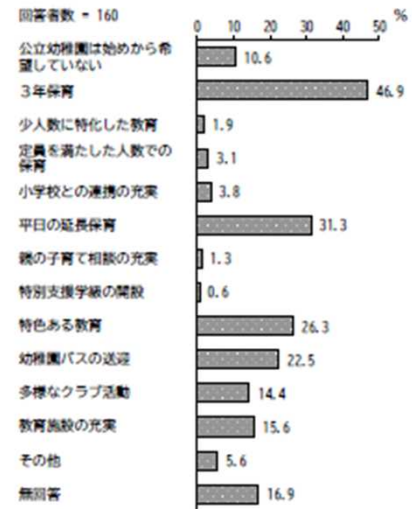
問21-2 【問21で「公立幼稚園」または「私立幼稚園」に○をつけた方にうかがいます。】
何歳から幼稚園を利用したいですか。
(あてはまる番号1つに○)

「3歳児から」の割合が45.8%と最も高く、次いで「満3歳(2歳児)から」の割合が39.0%、「4歳児から」の割合が10.7%となっています。



問21-3 【問21で「公立幼稚園」に○をつけず「私立幼稚園」に○をつけた方にうかがいます。】
下記の項目があれば、公立幼稚園を希望する(していた)というものは何ですか。
(あてはまる番号3つまでに○)

「3年保育」の割合が46.9%と最も高く、次いで「平日の延長保育」の割合が31.3%、「特色ある教育」の割合が26.3%となっています。

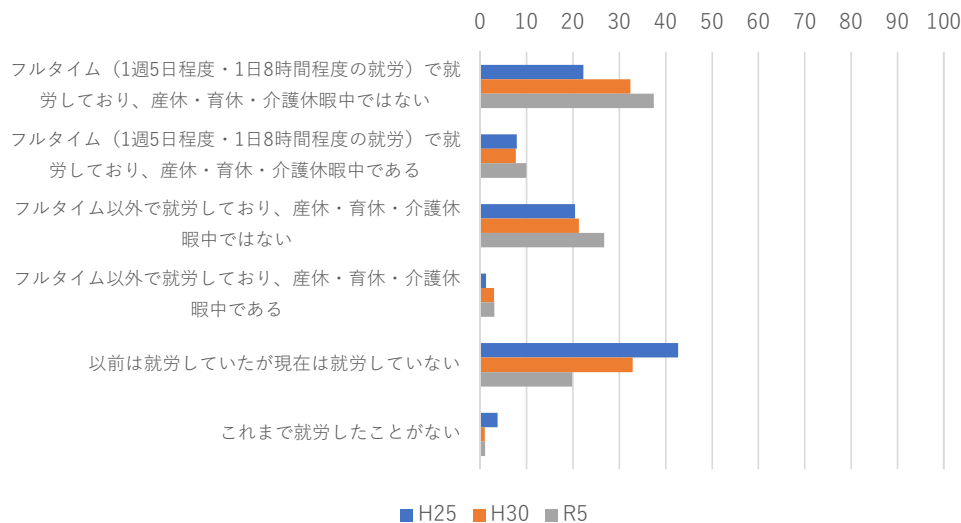


※R6.3月公表のつくば市子育てアンケート調査結果報告書より引用
(11ページに出典情報詳細あり)

保護者（母親）の就労状況の変化

	H25	H30	R5
フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・育休・介護休暇中ではない	22.3	32.4	37.5
フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・育休・介護休暇中である	7.9	7.7	10
フルタイム以外で就労しており、産休・育休・介護休暇中ではない	20.5	21.3	26.8
フルタイム以外で就労しており、産休・育休・介護休暇中である	1.3	3	3.1
以前は就労していたが現在は就労していない	42.7	32.9	19.9
これまで就労したことがない	3.8	1	1.1

保護者（母親）の就労状況について（％）



〈出典〉

アンケート名 つくば市子育てアンケート（H25年度、H30年度及びR5年度に実施したアンケートの調査結果報告書を参照）

各年度3月 公表

調査対象 就学前の子どもの保護者

（令和5年4月1日現在の0歳児～5歳児の保護者）

調査期間 令和5年12月14日から令和6年1月19日

調査方法 郵送により調査票を配布し、郵送またはインターネットによる回答

回収状況 就学前児童の保護者 配布数 2,500通 有効回答数1,336通

有効回答率 53.4%

(3) つくば市立幼稚園に求められる機能や役割（第2回検討委員会に提示）

① 幼児教育の拠点園

- ・ 地域のモデルとなるような質の高い幼児教育を提供
- ・ 地域に根付いた教育実践の発信、地域資源の活用、 など

② 保幼小の円滑な接続

- ・ 地域の保育施設（私立含む）と小学校との連携・協議
- ・ 地域内での情報共有や合同研修を通じて、全体の教育向上貢献、 など

③ 全ての幼児（特別な支援を必要とする幼児や外国籍等の幼児を含む）の教育機会の保障

- ・ 子育て講座や未就園児向けの親子登園活動の実施
- ・ 保護者への相談支援や情報提供を通じて、家庭教育力の支援
- ・ 地域の関係機関（保健センター・子育て支援センターなど）と連携し統括的な支援体制を構築、




など




【第1回、第2回 振り返り】



○委員意見


- ・市立幼稚園の強みを生かした小学校との連携強化
幼保小連携の拠点化、アドバイザー・コーディネーター機能
 - ・3歳児保育、長期休業期間預かりの拡大
 - ・少人数を活かした手厚い保育
特別支援、外国にルーツを持つ園児
 - ・地域社会との連携
保護者の学びの場（座談会）、地域交流
- 
- 
- 



(4) つくば市立幼稚園が維持すべき機能について
(第1回、第2回の意見を踏まえ第3回検討委員会に提示)



○市立幼稚園が果たしてきた役割

- 
1. 質の高い幼児教育の提供、学校教育との連携
教育要領に基づく幼児教育を忠実に実践
 2. 多様な背景を持つ子どもの受け入れ
幼児教育の機会確保
 3. 地域における幼児教育の中核的存在
地域の未就園児支援、他施設との交流

(5) 令和8年度予定園児数及び学級編制について

○令和8年度市立幼稚園の予定園児数（表1）

- ・ 令和7年5月456名 ➡ 令和8年4月予定数366名（約90名減）

○令和8年度市立幼稚園の学級編制（表2）

- ・ 5人以下の学級有、かつ、全体で10人以下の園
➡ 4歳児5歳児を混合保育
- ・ 平日預かり保育の拡充
➡ 令和8年5月開始を目標に、5園程度拡充

表1 市立幼稚園の園児数推移

	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
筑波	26	33	23	19	20	15	8
大穂	51	35	32	31	24	24	20
上郷	31	20	17	18	12	8	8
島名	46	43	45	45	40	39	42
桜南	44	25	23	26	29	22	10
桜	50	38	27	22	21	10	10
東	24	20	21	21	16	14	10
二の宮	49	41	31	24	24	28	24
手代木南	22	17	25	49	52	49	50
松代	94	89	63	45	44	30	16
竹園西	27	35	24	18	23	25	19
竹園東	34	23	25	27	28	34	22
吾妻	26	18	27	34	30	27	15
谷田部	162	148	132	115	100	89	75
荃崎				60	47	42	37
高崎	37	22	22				
岩崎	26	16	17				
計	749	623	554	554	510	456	366

※令和2年度～令和7年度は、5月1日時点の実績数。
令和8年度は、4月1日予定数。

グラフ1 園児総数推移

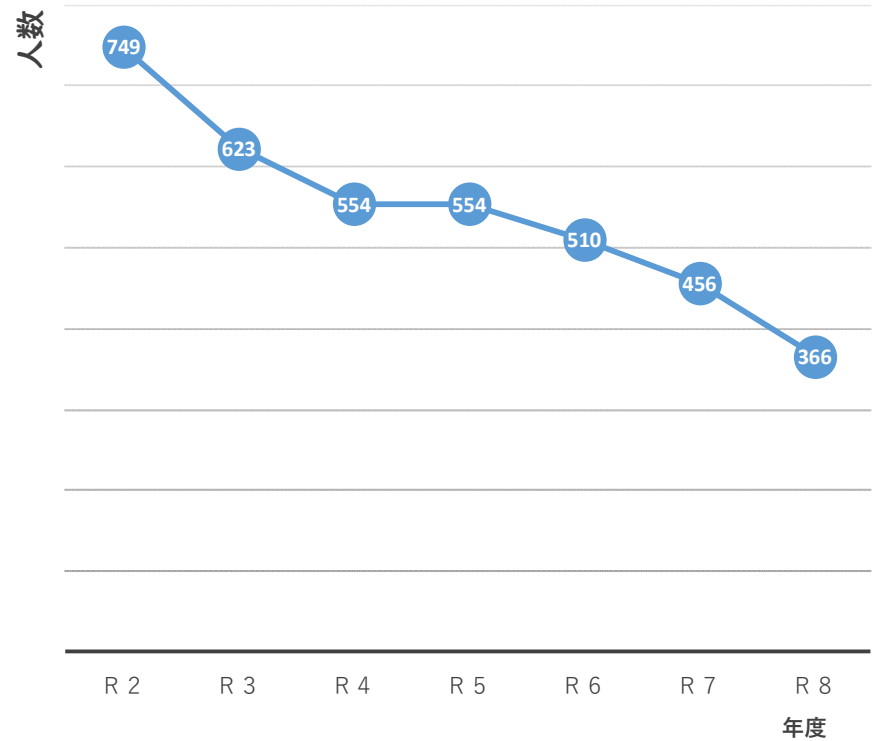


表2 令和8年4月クラス別予定園児数

令和7年12月1日現在

園名	3歳児	4歳児	5歳児	合計	定員	充足率	クラス数
筑波		2	6	8	60	13%	1
大穂		5	15	20	60	33%	2
上郷		4	4	8	60	13%	1
島名		20	22	42	60	70%	2
桜南		4	6	10	60	17%	1
桜東		5	5	10	60	17%	1
東		2	8	10	60	17%	1
二の宮		7	17	24	60	40%	2
手代木南	18	18	14	50	78	64%	3
松代		7	9	16	60	27%	2
竹園西		6	13	19	60	32%	2
竹園東		7	15	22	60	37%	2
吾妻		5	10	15	60	25%	2
谷田部		28	47	75	180	42%	4
荃崎	9	16	12	37	108	34%	3
計	27	136	203	366	1,086	34%	29

5人以下の学級有 かつ

全体10人以下

4歳5歳混合保育

(6) つくば市立幼稚園のあり方について

1. 学級編制及び園の規模について

○現状

- ・国の幼稚園設置基準では「1学級35人以下」とのみ規定
平成23年度の国委託研究※ ➡ 3歳児でも約20人前後の集団が適切

※社団法人全国幼児教育研究協会「幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究」

○基本的な考え方

- ・「質の高い幼児教育」実践のため、集団教育が重要。
➡園児数の減少傾向を踏まえ、学級編制及び園の規模について、本市としては、
1学級6人以上かつ幼稚園全体で16人以上を維持することが望ましい。


理由：少人数のメリットと集団教育の重要性とのバランス
地域に根ざした幼稚園に対する運営継続の意向
園運営の実情を反映したつくば市独自の学級編制



(6) つくば市立幼稚園のあり方について



2. 令和9年度以降の園運営の継続と園児への対応について



4月始業時点での入園児数が、1学級5人以下または幼稚園全体15人以下の園は、原則として、次年度の募集は行わず、次年度から休園とする。

※令和9年度については、令和8年4月の入園児数



○休園となる幼稚園の園児・保護者への対応

休園となる園を早期に周知


対象園の4歳児に対し近隣幼稚園への通園支援

通園バスによる通園のサポート



(6) つくば市立幼稚園のあり方について

3. 幼稚園の集約化と機能の拡充について



市立幼稚園等を取り巻く状況を踏まえ、市立幼稚園を段階的に集約しながら、地域の教育・保育の拠点とするとともに、幼児教育・保育の機能の拡充を図る。



【機能の拡充】


- 
- ・ 3歳児保育の拡充（令和9年度から）
 - ・ 長期休業期間、平日の預かり保育の拡充
 - ・ 拠点施設化の検討

表3 市立幼稚園の集約化（あり方検討委員会でのイメージ）

No.	エリア	園名	バス※	集約化等	予定年度
1	北部	筑波	〇〇	既存施設内での集約化を検討	令和9年度
2	北部	大穂	〇		
3	西部	上郷	〇	既存施設内での集約化を検討	令和9年度
4	西部	島名	〇		
5	東部	桜南	〇	既存施設内での集約化を検討	令和9年度
6	東部	桜	〇		
7	中央	東			
8	中央	二の宮			
9	中央	手代木南		既存施設内での集約化を検討	令和9年度
10	中央	松代			
11	中央	竹園西		敷地等の条件から近隣小学校内での集約化を検討	令和10年度以降
12	中央	竹園東			
13	中央	吾妻			
14	南部	谷田部	〇〇	谷田部南小学校内に設置	—
15	南部	荃崎	〇〇	荃崎第三小学校内に設置	—

※現在所有するバスを活用し、各園の送迎を行う。



(6) つくば市立幼稚園のあり方について



4. 市立幼稚園の広報活動の充実



市立幼稚園のアピールポイントを明確にし、未就園児を中心とした子育て世帯への市立幼稚園の広報を充実させる。

○アピールポイント

- ・つくば市教育大綱に基づく幼児教育の実践

例えば、

実体験を大切にする学び

遊びによる、非認知能力を高める学び



保護者・地域・学校・行政の対話と協働の推進



(6) つくば市立幼稚園のあり方について



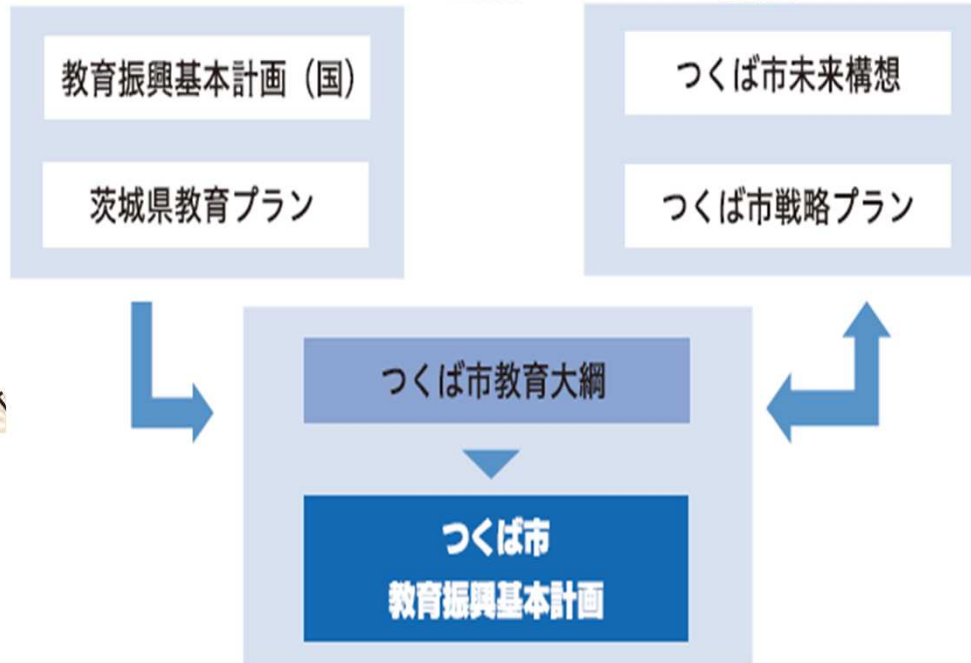
5. 再編計画に向けた留意事項

- 
- ・ 集約化する園の交流
 - ・ 小学校との連携、施設の活用
 - ・ 保育所との連携、認定こども園化の検討
 - ・ 保護者や地域住民への周知
 - ・ 園区の見直し
- 

第7回総合教育会議 つくば市立幼稚園のあり方について 【資料編】

- P. 1 ①上位計画
・つくば市教育大綱、つくば市教育振興基本計画
・つくば市学校等適正配置計画・指針
- P. 3 ②人口の動向
- P. 4 ③県内の幼児教育・保育施設の推移
- P. 5 ④つくば市立幼稚園の状況（施設、運営の状況）
- P. 6 ⑤幼稚園費の推移
- P. 7 ⑥就園率
- P. 8 ⑦特別な支援が必要な園児、外国にルーツを持つ園児
- P. 11 ⑧3歳児保育
- P. 14 ⑨預かり保育（長期休暇、平日）の利用率
- P. 15 ⑩公立幼稚園における幼小連携の取り組み
- P. 18 ⑪つくば市立幼稚園に求められる機能や役割

①上位計画



第3期つくば市教育振興基本計画 (令和3年度～令和7年度)

【基本方針】 未来をひらく力を育む

(施策2) 幼児教育の充実

- ・ 多様な経験につながる豊かな遊びの推進
- ・ 学びに向かう力を育む幼児教育
- ・ 幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行の推進
- ・ 幼稚園・家庭・地域の連携による教育力の向上

つくば市 学校等適正配置 計画・指針

令和7年(2025年)3月

〔対象期間〕

令和6年度(2024年度)から

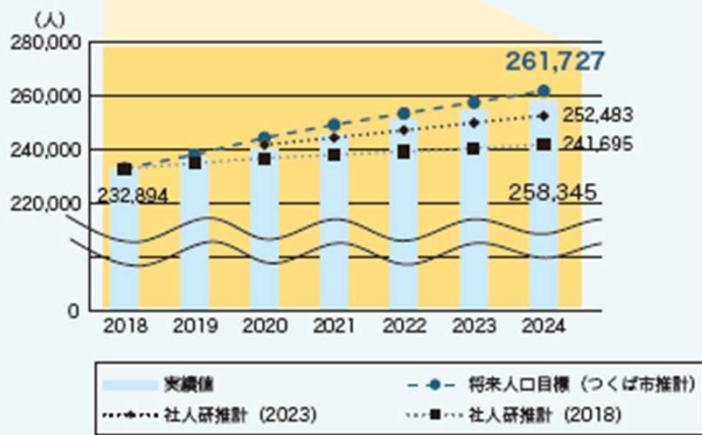
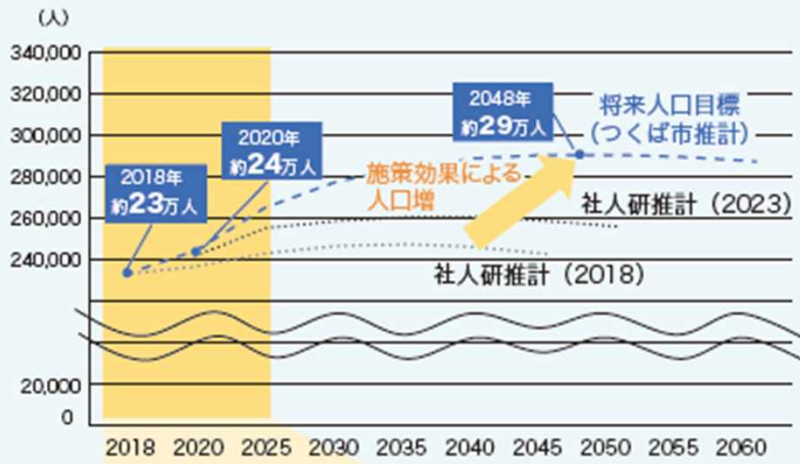
令和25年度(2043年度)まで

3章 計画見直しに当たって考慮すべき事項

8. 公立幼稚園への市民ニーズとその対応

本市が令和5年度に実施した「つくば市子育てアンケート」の結果によると、公立幼稚園に求められるものとして、3歳児保育や平日の延長保育の実施などが挙げられています。令和4年度(2022年度)から手代木南幼稚園で、令和5年度(2023年度)から荃崎幼稚園で3歳児保育を実施していますが、他の幼稚園での3歳児保育の実施や預かり保育の実施については、教職員の配置等の課題があります。

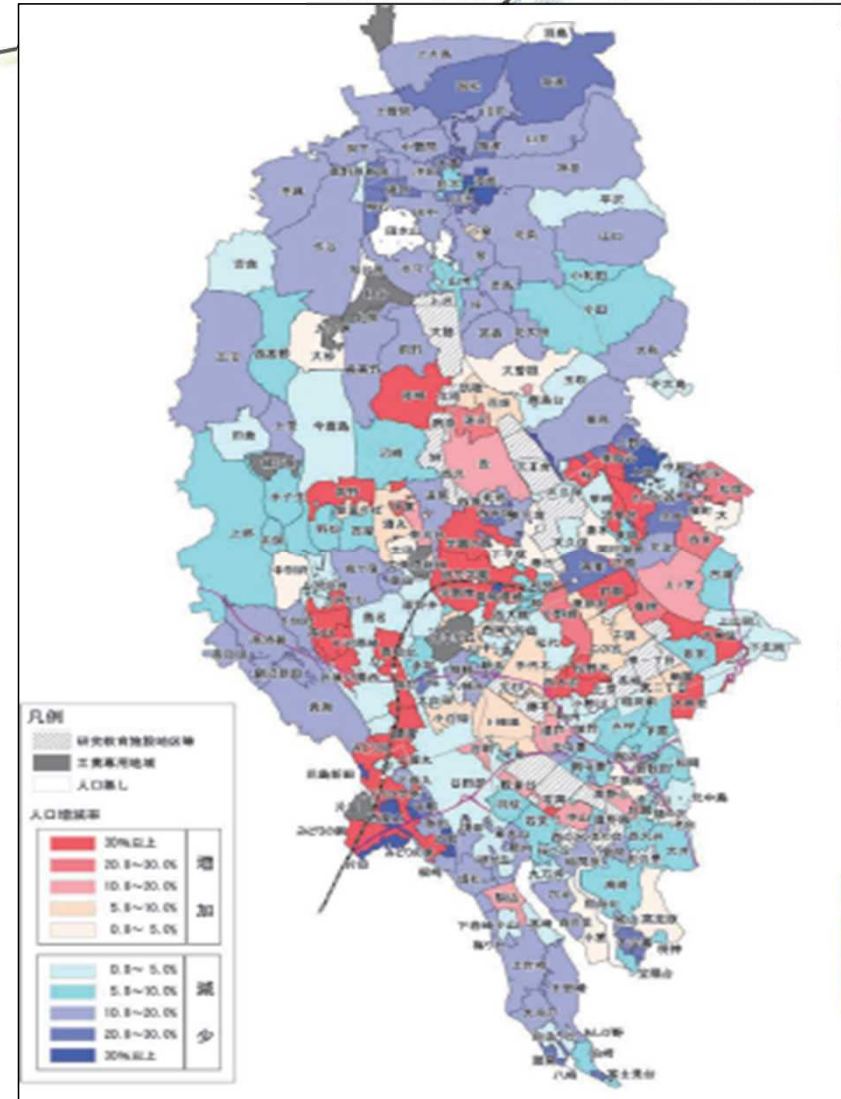
②人口の動向



出典：第3期つくば市戦略プラン_概要版

大字別人口増減 (平成24年から令和4年)

出典：つくば市都市計画マスタープラン、立地適正化計画



③県内の幼児教育・保育施設の推移

県内の幼児教育・保育施設数の推移

(各年5月1日時点)

	幼稚園				幼保連携型 認定こども園		保育園			幼児教育・保育施設		
	国公立		私立		国公立	私立	国公立	私立		計	国立	休園
R 1	134	① (10)	124		15	128	133	329		863	①	(10)
R 2	118	① (8)	121		20	140	124	330		853	①	(8)
R 3	105	① (9)	118	(1)	20	144	121	345		853	①	(10)
R 4	92	① (5)	114	(1)	21	151	119	344		841	①	(6)
R 5	85	① (4)	111		21	154	117	346		834	①	(4)
R 6	77	① (7)	111		22	154	111	354	(2)	829	①	(9)

令和6年度つくば市の施設数

R 6	17	(2)	7		6	22	53		105		(2)
-----	----	-----	---	--	---	----	----	--	-----	--	-----

注1) ○は国立(内数)、()内は休園数(内数)。

休園のうち、2園は、つくば市立並木幼稚園、真瀬幼稚園。

注2) 幼稚園には幼稚園型認定こども園を含む、保育園には保育園型認定こども園を含む。

【茨城県教育委員会資料より学務課作成】

④つくば市立幼稚園の状況（施設、運営の状況）

	園名	グループ園 No.	定員 (人)	3歳児保育	平日預かり保育	送迎バス	建築年度	大規模修繕・改修年度	構造	延床面積 (㎡)	近隣私立幼児教育施設	備考
1	大穂	1	60			○	1991		W	756	2園	
2	上郷	2	60			○	1987		W+S	498	2園	
3	谷田部	3	180			○	1987		RC	909	1園	2011年～谷田部南小学校内
4	島名	2	60		○	○	1974、1979	2013	S	566		1974年に管理保育室棟、1979年に保育遊戯室棟を改修
5	手代木南	4	78	○	○		1979		RC	1,027	1園	
6	二の宮	5	60				1987		W	917	1園	
7	東	5	60				1994		W	582	2園	
8	松代	4	60				1994		W	586	1園	
9	桜	1	60			○	1976	2012	RC	728	2園	
10	竹園東	6	60				1974	1991、2013	RC	805	1園	1991年に保育室棟、2013年に保育室等及び管理棟を改修
11	竹園西	6	60				1988		RC	851	1園	
12	吾妻	6	60				1978		RC	1,027	1園	
13	桜南	5	60			○	1978	2012	RC	1,034	1園	
14	筑波	1	60			○	1991		S	705		
15	荃崎	3	108	○		○	1980	1997	RC	1,224	2園	2023年～荃崎第三小学校内

※グループ園は、職員の協力など、運営上の連携体制をとっているグループ。

※近隣私立幼稚園教育施設は、直線距離で概ね6キロ未満。

※谷田部幼稚園及び荃崎幼稚園は、それぞれ学校の建築年度と大規模修繕・改修年度を記入している。

【参考】1日の流れ

	8:40～9:00	10:00	11:30	13:00	15:00	16:30
15時降園	登園	好きな遊び	クラスの活動	給食(準備)	好きな遊び 集まり	降園 預かり保育
14時降園					遊び・集まり 降園	預かり保育

14:00

16:30

これからの
やさしさの
ものさし
つくばSDGs

⑤ 幼稚園費の推移

(つくば市一般会計：第10款 第4項 第1目)

(単位：千円)

事業No. 事業名	R 2年度 実績	R 3年度 実績	R 4年度 実績	R 5年度 実績	R 6年度 実績	R 7年度 予算
05 職員給与関係経費	597,236	605,193	628,243	622,736	665,309	674,207
06 会計年度任用職員に要する経費	10,739	11,665	9,772	11,272	24,539	30,279
11 施設整備に要する経費	29,121	36,616	210,920	36,461	143,056	776,043
12 幼稚園管理運営に要する経費	78,640	74,329	80,266	76,446	85,222	88,611
13 幼稚園保健管理に要する経費	8,530	8,212	8,132	7,685	7,620	9,323
14 幼児教育振興に要する経費	4,713	4,292	4,499	4,370	4,320	5,504
15 施設管理に要する経費	19,576	19,926	21,593	29,624	28,291	33,619
16 幼稚園施設取得に要する経費	29,013	29,028	29,044	29,060	28,449	0
17 備品整備に要する経費	6,147	6,109	5,120	4,503	4,715	6,537
18 情報機器整備に要する経費	2,162	2,139	2,151	3,839	4,236	5,132
19 私立幼稚園利用給付に要する経費	439,555	431,896	409,739	373,375	197,427	203,515
合計	1,225,432	1,229,405	1,409,479	1,199,371	1,193,184	1,832,770

※実績はつくば市歳入歳出決算書、予算はつくば市一般会計予算、9月補正後(補正予算第4号)より。

⑥ 就園率

公立幼稚園の園区ごとの3～5歳児人数と、うち公立幼稚園に通っている人数

	大穂			上郷			谷田部			島名			手代木南			二の宮			東			松代		
	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率
3歳児	127	0	0.0%	135	0	0.0%	566	3	0.5%	266	1	0.4%	171	14	8.2%	111	0	0.0%	52	0	0.0%	360	1	0.3%
4歳児	197	16	8.1%	130	4	3.1%	565	47	8.3%	259	22	8.5%	80	10	12.5%	149	17	11.4%	54	10	18.5%	421	13	3.1%
5歳児	201	13	6.5%	140	5	3.6%	590	52	8.8%	211	16	7.6%	81	14	17.3%	131	17	13.0%	51	8	15.7%	409	23	5.6%

	桜			竹園東			竹園西			吾妻			桜南			筑波			茎崎			市内全域		
	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率	園区内総数 (R7.4.1 時点)	公立幼稚園 通園者数 (R7.10.1 時点)	就園率
3歳児	193	0	0.0%	102	3	2.9%	119	0	0.0%	83	0	0.0%	154	0	0.0%	69	0	0.0%	104	12	11.5%	2612	34	1.3%
4歳児	188	5	2.7%	109	15	13.8%	119	10	8.4%	105	10	9.5%	122	6	4.9%	62	5	8.1%	102	11	10.8%	2662	201	7.6%
5歳児	201	7	3.5%	124	24	19.4%	129	10	7.8%	110	16	14.5%	163	17	10.4%	101	7	6.9%	135	18	13.3%	2777	247	8.9%

※園区内総数は、令和7年度4月1日行政区別年齢別人口統計より引用

※通園者数は、園区外の公立幼稚園に通っている人数も含む

⑦特別な支援が必要な園児、外国にルーツを持つ園児

- ・公立幼稚園に通う園児の中で、特別な支援（1対1の支援）が必要な園児の人数

	支援児数 (10/1時点)	公立幼稚園児数 (10/1時点)	支援児在籍率(%表示 後の小数点第2位を四 捨五入)
3歳児(10/1現在)	4	34	11.8%
4歳児(10/1現在)	29	201	14.4%
5歳児(10/1現在)	23	247	9.3%
総数(10/1現在)	56	482	11.6%

※R7.10.1時点 学務課調べ

- ・公立幼稚園に通う園児の中で、外国にルーツを持つ（外国籍・帰国子女等）園児の人数

	外国籍または 帰国子女の人数 (10/1時 点)	公立幼稚園児数 (10/1時点)	支援児在籍率(%表示 後の小数点第2位を四 捨五入)
3歳児(10/1現在)	3	34	8.8%
4歳児(10/1現在)	18	201	9.0%
5歳児(10/1現在)	32	247	13.0%
総数(10/1現在)	53	482	11.0%

※R7.10.1時点 学務課調べ

・外国にルーツを持つ園児数の園ごとの内訳

	大穂	上郷	谷田部	島名	手代木南	二の宮	東	松代	桜	竹園東	竹園西	吾妻	桜南	筑波	荃崎	全園	
3歳児(10/1現在)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
4歳児(10/1現在)	0	0	3	2	2	2	0	0	0	2	2	1	2	1	0	1	18
5歳児(10/1現在)	1	1	1	0	1	5	1	1	1	1	4	4	9	3	0	0	32
総数(10/1現在)	1	1	4	2	5	7	1	1	1	3	6	5	11	4	0	2	53

※R7.10.1時点 学務課調べ

・宗教等の配慮（動物性食品制限や行事参加制限等）が必要な園児の人数

	配慮が必要な園児数 (10/1時点)	公立幼稚園児数 (10/1時点)	支援児在籍率(%表示後の小数点第2位を四捨五入)
3歳児(10/1現在)	0	34	0.0%
4歳児(10/1現在)	14	201	7.0%
5歳児(10/1現在)	11	247	4.5%
総数(10/1現在)	25	482	5.2%

※R7.10.1時点 学務課調べ



・外国にルーツを持つ園児とその保護者へのフォローについて ※吾妻幼稚園での取り組みを抜粋

1. 日本語学習の保育の工夫

- ・遊びや歌、日常活動を通じて、子どもが自然に日本語に親しめるような環境の整備
- ・イラストカードを活用し、視覚的にもサポートしながら、日本語の習得を支援

2. 情報提供の工夫

- ・園から送付する手紙やお知らせは、園で翻訳サイトを使って英語版を作成
- ・イラストや写真も活用して情報を提供
- ・対面の場合、持ち物の説明時には実際の物を見せながら対応

3. 宗教や文化的習慣への配慮

- ・行事の内容や進め方、ラマダン期間中の配慮など、保護者に聞き取りを行いながら、個別の状況に合わせて対応

4. 多文化共生の実現に向けた保育活動

- ・外国の伝統的な遊びや歌を取り入れるなど、多様性を受け入れ、異文化理解を深める取り組み



⑧ 3歳児保育

○手代木南幼稚園の3年保育利用者（R6年度卒園生保護者）へのアンケート

- ・3年保育を経験してみて、良かった点や気になった点等について、いばらき電子申請を用いた匿名のアンケートをR7.2月～R7.3月に実施
- ・R7.3月時点での手代木南幼稚園5歳児の人数21人のうち、回答9件。

調査項目一覧

- 質問1-1 つくば市立幼稚園の3歳児保育以外で、申込みを検討した施設はありますか。
- 質問1-2 つくば市立幼稚園へ入園を決めた理由について教えてください。
- 質問2-1 3歳児から入園して保護者やご家族にとって良かった点について教えてください。
- 質問2-2 3歳児から入園してお子様にとって良かった点について教えてください。
- 質問3-1 幼稚園生活において施設面で気になった点について教えてください。
- 質問3-2 幼稚園生活において教育（保育）の面で気になった点について教えてください。
- 質問3-3 幼稚園生活において前述以外で気になった点について教えてください。
- 質問4 公立幼稚園での3歳児保育についてほかの人に薦めたいと思いますか。
- 質問5 つくば市立幼稚園の今後について、ご意見をお聞かせください。

質問1-1 つくば市立幼稚園の3歳児保育以外で、申込みを検討した施設はありますか。

	回答数	割合
保育所	0	0%
私立幼稚園	3	33%
認定こども園	0	0%
つくば市立幼稚園のみ	6	67%
その他	0	0%
計	9	

質問4 公立幼稚園での3歳児保育についてほかの人に薦めたいと思いますか。

	回答数	割合
思う	8	89%
思わない	0	0%
どちらともいえない	1	11%
計	9	

質問5 つくば市立幼稚園の今後について、ご意見をお聞かせください。

※自由記述回答のうち、公立幼稚園の3年保育を広げてほしい旨の回答を抜粋

3歳保育の幼稚園がもっと増えればいいと思う

3年保育を拡大していかないと保育園や私立の幼稚園に子どもが流れていくと思う。

公立幼稚園の園児数が減っているのが残念です。3年保育にして人気上がり、園児数も適正な人数まで増えて、公立の良さを継続していけるとよいです。(中略)こどもたちにとっても、先生がいそいそと働ける環境であることを望みます。

子供、保護者双方にとって、3年保育のメリットは大きいと思います。現在は2園のみしか実施されていないようですが、できるだけ多くの園へと拡大してほしいと思います。そのための保育士の確保や施設の改修など、市の支援(投資)を期待します。

市立幼稚園は園児数が激減しています。様々な個性のある子どもも多くて大変だとは思いますが、それを含めて市立幼稚園の良い所だと思います。(中略)全ての園で3年保育を始めるべきだと思います。

先生方のおかげで、楽しい3年間を過ごすことができました。3年保育で、子どもも充実した幼稚園生活を送ることができました。つくば市の他の公立幼稚園も3年保育になると、公立幼稚園の園児数も増えると思います。公立幼稚園に通ったことで、同じ小学校に行く友達もでき、幼保小の交流会や、中学生との交流もあり、公立ならではの良さがあったと思います。

全ての公立幼稚園で3年保育を行ってほしい。

⑨預かり保育（長期休暇、平日）の利用率

○長期休暇の預かり保育の利用率

※9時～15時で実施。実施日は幼稚園が決定する。

	大穂				上郷				谷田部				島名				手代木南				二の宮				東				松代			
	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率				
令和6年度冬季	0	0	25		0	0	12		1	1	98	1.0%	0	0	45		0	0	52		1	4	26	15.4%	0	0	17		1	3	47	6.4%
令和6年度春季	1	1	24	4.2%	0	0	12		1	2	98	2.0%	1	4	43	9.3%	1	4	52	7.7%	1	5	26	19.2%	0	0	17		1	8	49	16.3%
令和7年度夏季	4	14	25	14.0%	0	0	9		4	13	92	3.5%	3	6	39	5.1%	4	44	50	22.0%	3	20	28	23.8%	4	7	15	11.7%	4	12	30	10.0%


	桜				竹園東				竹園西				吾妻				桜南				筑波				茎崎			
	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率
令和6年度冬季	0	0	21		1	1	32	3.1%	1	1	29	3.4%	1	4	29	13.8%	1	4	31	12.9%	0	0	22		1	3	51	5.9%
令和6年度春季	0	0	22		1	4	36	11.1%	0	0	32		0	0	30		1	1	32	3.1%	1	1	22	4.5%	0	0	50	
令和7年度夏季	4	10	12	20.8%	0	0	35		4	21	25	21.0%	0	0	27		3	3	24	4.2%	0	0	15		0	0	46	

○平日の預かり保育（島名及び手代木南）の利用率

	島名				手代木南				
	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	期間内実施日数	参加述べ人数	同時期在園児数	利用率	
9月		1	1	39	2.6%	15	55	50	7.3%
10月		5	6	38	3.2%	15	122	50	16.3%

※幼稚園対園時間～16時半で実施。
実施日は幼稚園が決定する。






⑩公立幼稚園における幼小連携の取り組み

1. 合同活動の実施

- ・つくばスタイル科(総合的な学習)、運動会や音楽会などの行事での共同参加や教室訪問

2. 教職員間の連携

- ・つくば市学び推進課の学校訪問の際、小学校の教員は幼稚園を参観し、幼稚園の教員は小学校を参観
- ・研修会や会議を通じて、情報共有や指導方法の共通理解を深める



3. カリキュラムの接続

- ・幼稚園での遊びを通じた学びと、小学校での学習活動との接続を意識した教育課程を編成
- ・幼稚園で培った基本的な生活習慣や社会性を、小学校での学びにつなげる工夫

4. 保護者への支援

- ・保護者の方々が気軽に交流し、子育てについて相談し合えるような場の設置
- ・地域全体で子どもたちを見守り育てる「地域ぐるみの子育て支援」の土台形成



※荃崎幼稚園と荃崎第三小学校・荃崎地区の連携を例示

1. 幼稚園児と小学校1年生の交流活動(年3回)

・第1回交流会(7月/幼稚園)

授業テーマ「なつがやってきた」で1年生が制作した水鉄砲を使い、一緒に遊ぶ

・第2回交流会(11月/小学校)

授業テーマ「あきとあそぼう」で制作した遊具を使い、児童がテーマパークを準備園児を招待し、遊びを通じた交流

・第3回交流会(2月/小学校)

学習体験:ワークシートで名前書きや運筆練習(曲線・直線など)園児の作品に対して児童が声かけや丸付けを行う

風車遊び:授業で制作した風車を使って一緒に遊ぶ



2. 荖崎地区 保幼小中連携会議(年6回)

・参加機関

公立幼稚園(1園)／認定こども園(2園)／公立保育所(2所)／私立保育所(1所)／小学校(3校)／中学校(2校)

・実施内容

第1回:事業計画説明会(校長・園長・所長)

第2回:第1学年授業参観と情報交換会(教員・教諭・保育士)

第3回:保幼小コーディネーター会議<接続プログラム等について>(教頭・主任・コーディネーター)

第4回:保育所参観と分科会による研修(教員・教諭)

第5回:事業計画の振り返りと次年度計画(校長・園長・所長)

第6回:新1年生引継ぎ連絡会議(教諭・保育士)

3. その他の連携活動

・荖崎中学校 第9学年(2クラス)

家庭科「保育施設訪問実習」として、12月頃に2日間実施
中学生が制作したおもちゃを使い、園児と遊びを通じて交流

・荖崎第三小学校 入学式・卒業式

入学式卒業式では、園児が2階廊下でお祝いと見送りを行うなど、式典への参加を通じたつながり作り

・荖崎地区各小学校入学式

全ての小学校の入学式に教員が来賓として参加

・保育所との交流

近隣の公立保育所と協働し、園児同士で交流



⑪つくば市立幼稚園に求められる機能や役割

学校教育法 第3章 幼稚園

第22条（幼稚園の目的）

幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

第23条（幼稚園教育の目標）

幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

1. 健康で安全な生活習慣の育成と身体機能の調和的発達
2. 集団生活への積極的参加、信頼感、自主・自律・協同の精神および規範意識の芽生え
3. 身近な社会・生命・自然への興味と正しい理解、思考力の芽生え
4. 言葉の適切な使用、人の話を理解しようとする態度の育成
5. 音楽や表現活動を通じた豊かな感性と表現力の芽生え